

2023年度 報告書



女性キャリア開発研究センター
Center for Women's Career Development



For Future
Well-Being
健やかな明日が華ひらく





INDEX

ご挨拶

活動報告

I. 女性のための就業継続支援 ― 調査報告 ―

(1) 1年生「職業意識に関するアンケート調査」	01
(2) 卒業予定者「キャリア意識に関するアンケート調査」	06
(3) 入学時と卒業時の意識の変化	12
(4) 卒業生「卒業後のキャリアに関するアンケート調査」	14
(5) 卒業生「卒業後のキャリアに関するヒアリング調査」	18

II. キャリア支援

(1) インターンシップ	24
(2) ビジネスマナー講座・ワークショップ	25
(3) ボランティア	25
(4) 学Booo	26

III. リカレントプログラム

(1) 本学のリカレント教育	28
----------------	----

IV. 女子大学との連携

(1) 女子大学連携ネットワーク	30
(2) 関西圏女子大学発・産学連携ダイバーシティ推進ネットワーク	32
(3) 女性のためのリカレント教育推進協議会	32

ご挨拶

「女子大学に期待されること」へのチャレンジ 女性キャリア開発研究センター センター長 加藤 千恵

女性キャリア開発研究センターは、キャリア教育機関としての役割と研究機関としての役割を期待されて開設されました。教育活動としてはインターンシップやボランティア活動の支援、本学独自の自由参加型ラーニングコミュニティ「学Booo」の運営、ジェンダーの視点を取り入れた各種講座やキャリア相談を行い、研究活動としては女性の就業継続を支援するために必要なシステムの構築を目標に、在学生対象の職業意識調査や卒業生のキャリア支援調査を実施し、データの収集と分析を行ってきました。こうした取組みを通して、女性のための再就職支援の必要性に気づき、ビジネス系と医療福祉系のリカレントプログラムをスタートさせました。また、他の女子大学とのネットワークを構築することで、新たな流れを作ることでもできました。

本報告書では、2016年度開設当時から取り組んできた調査結果の概要と、2023年度のキャリア教育・リカレント教育、他大学との連携についてまとめました。女子大学におけるこれらの取組みの成果が今後の活動に生かされることを願っています。



活動報告 I . 女性のための就業継続支援 ― 調査報告 ―

(1) 1年生「職業意識に関するアンケート調査」

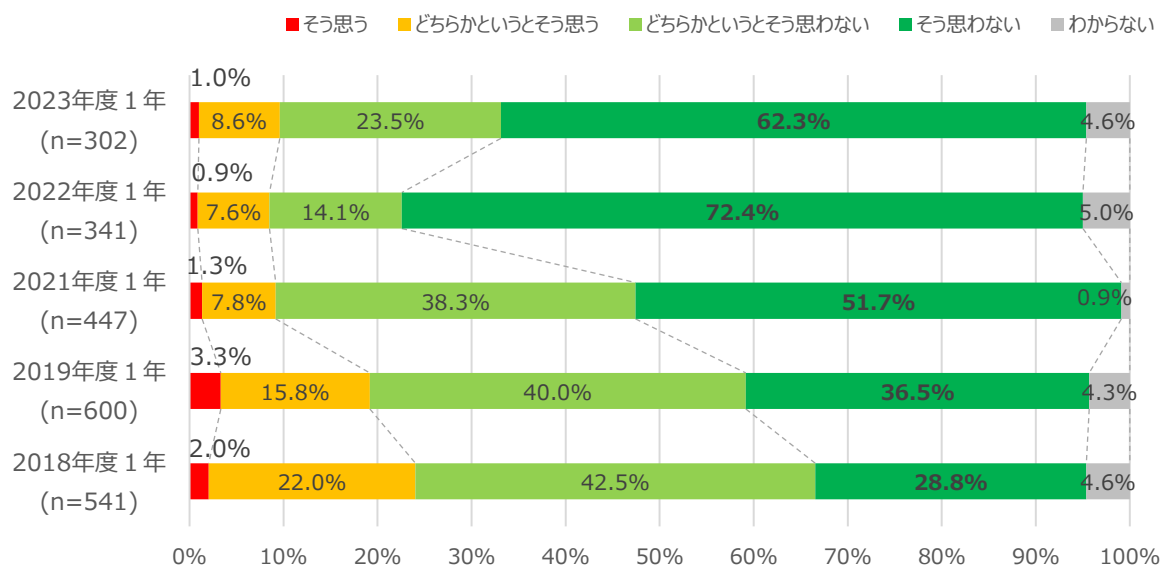
女性キャリア開発研究センターでは毎年、入学直後の大学1年生および短大1年生を対象に、継続して意識調査を行ってきた。新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった2020年度を除いた集計結果を報告する。年度ごとの調査対象数、回収数、回収率、調査項目は以下の通りである。

入学年度	調査期間	調査対象数	回収数	回収率(%)	調査項目
2023年度	2023年4月	425	302	71.1	ジェンダー意識， 理想のライフコース，社会的活躍 の可能性，卒業生支援，用語の 認知度，女子校経験等
2022年度	2022年4月	476	341	71.6	
2021年度	2021年5月	472	447	94.7	
2020年度	コロナ禍のため中止	608	—	—	
2019年度	2019年4月	631	600	95.1	
2018年度	2018年4月	584	541	92.6	

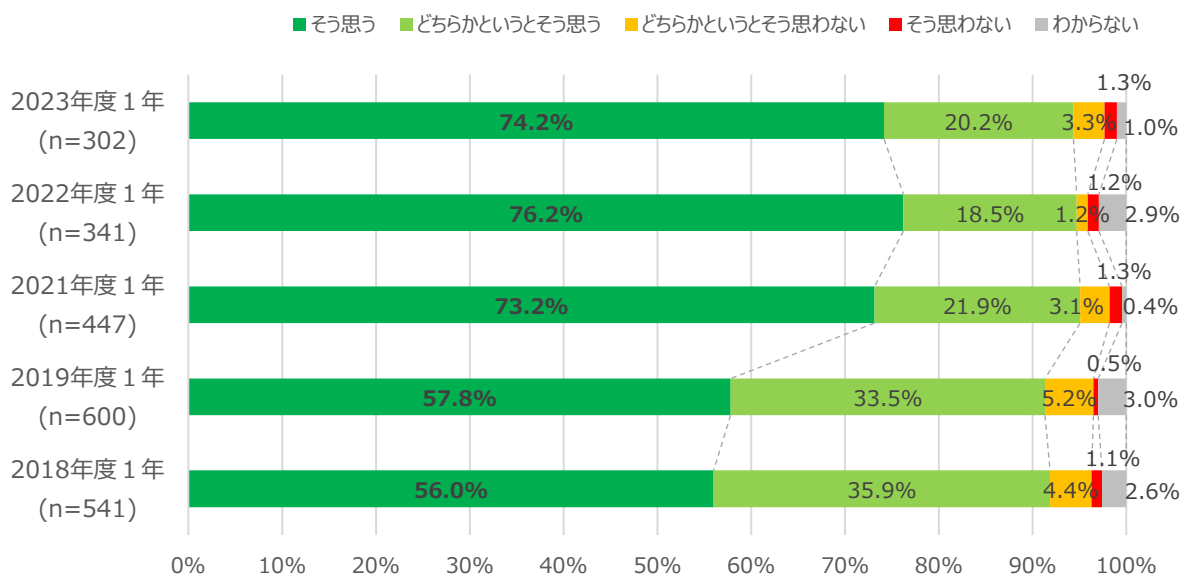
1. ジェンダー意識の変化

大学・短大の新入生（1年生）のジェンダー意識については3つの項目（「夫は外で働き妻は家庭を守るべきである」、「家事や育児は男女問わず平等に分担すべきだ」、「男女とも職業をもち経済的に自立するのがよい」）を用いた。また、ワークライフバランスへの関心を見るため、2つの項目（「仕事よりも家庭や家族の方が大切だ」、「子供のことも大事だが自分の生活も大事にしたい」）を加えた。回答は、「そう思う」から「そう思わない」までの4件法とした。

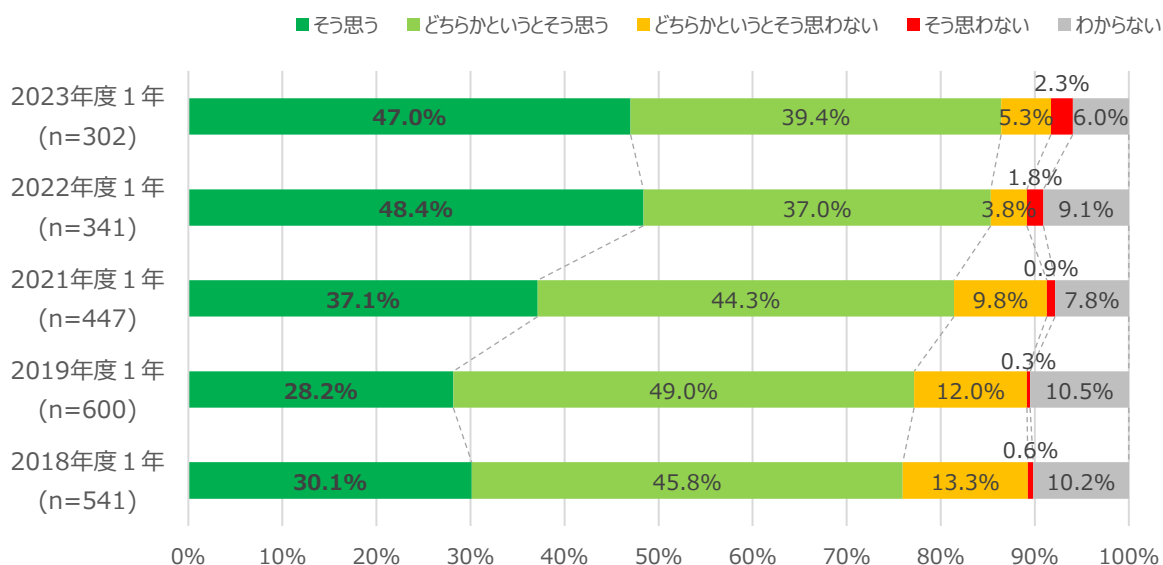
① 「夫は外で働き妻は家庭を守るべきである」という考え方について



② 「家事や育児は男女問わず平等に分担すべきだ」という考え方について



③ 「男女とも職業をもち経済的に自立するのがよい」という考え方について

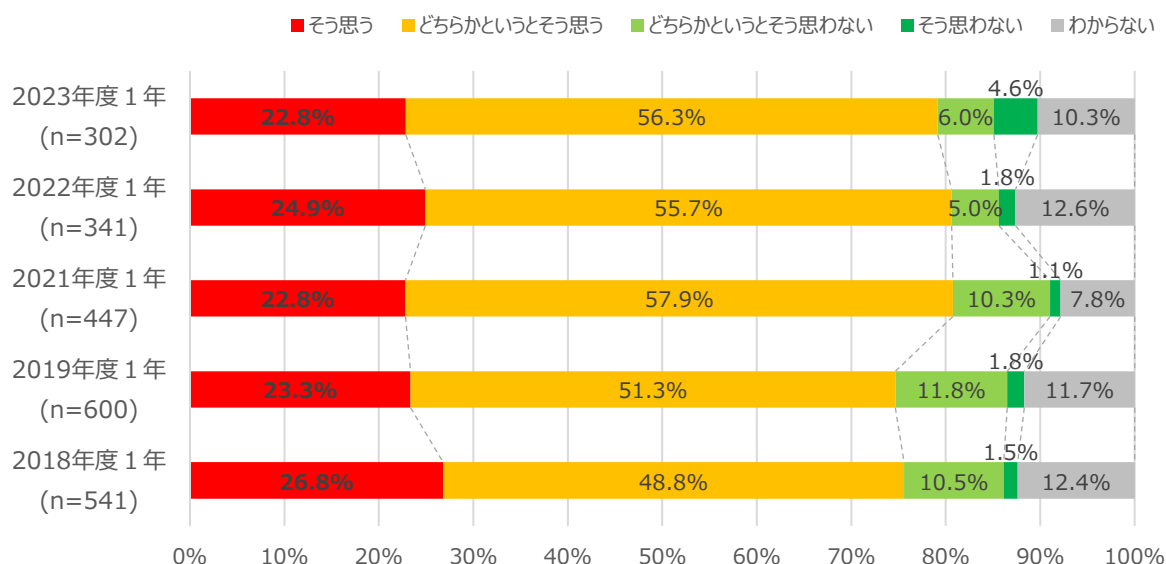


「夫は外で働き妻は家庭を守るべきである」と考える 1 年生は年々減少しており、「そう思わない」と明確に否定する割合も 6～7 割に達している。また、「家事や育児は男女問わず平等に分担すべきだ」と「男女とも職業をもち経済的に自立するのがよい」という考え方については、いずれも肯定的な意見が 8～9 割となっており、「夫は外で働き妻は家庭を守るべきである」と連動していることがわかる。

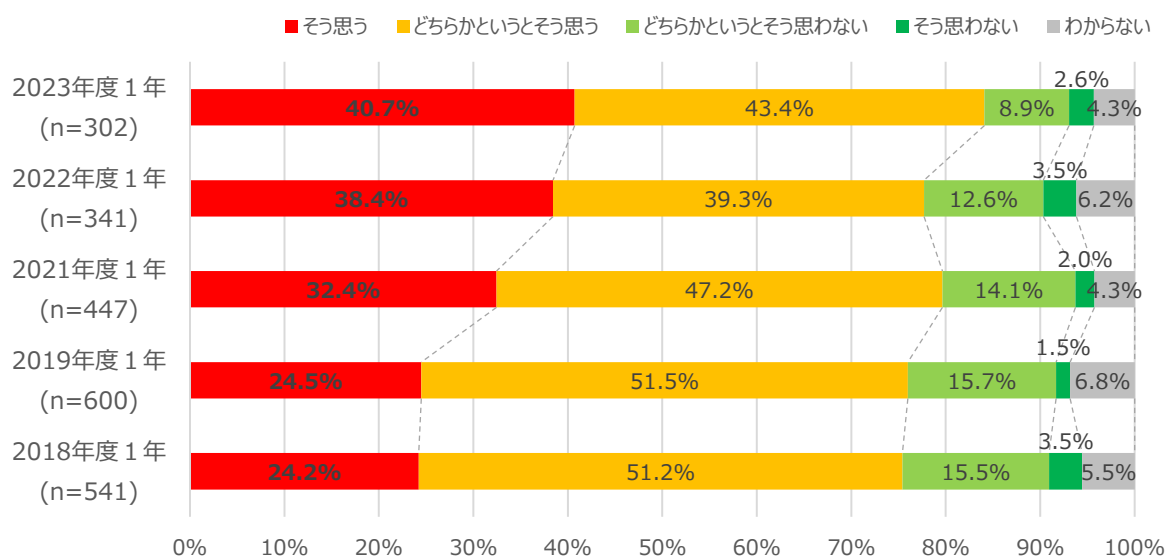
ただ、「2. 将来についての考え方」で紹介する「希望のライフコース」をみると、半数近くが「出産退職・再就職」を志向しており、女性のライフコースに対する一般的な考え方と、自分自身にあてはめた場合との間に違いが見られている。

「仕事よりも家庭や家族の方が大切だ」と考える1年生は7～8割で、この6年間、ほとんど変わっていない。一方、「子供のことも大事だが自分の生活も大事にしたい」と考える1年生は同じく7～8割であるが、「そう思う」と明確に肯定する割合が増加している。このことから、女性が子育てをするのは自然なことである・子育ては女性に向いている・女性の幸せは子育てにあるといった、いわゆる「母性神話」が消えつつあることがうかがえる。

④ 「仕事よりも家庭や家族の方が大切だ」という考え方について



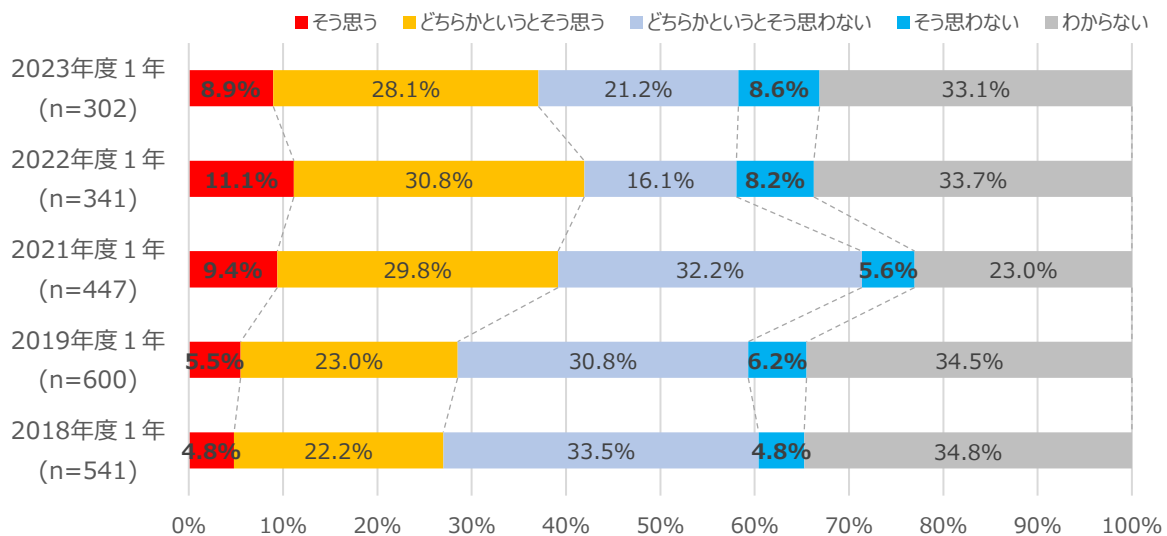
⑤ 「子どものことも大事だが、自分の生活も大事にしたい」という考え方について



2. 将来についての考え方

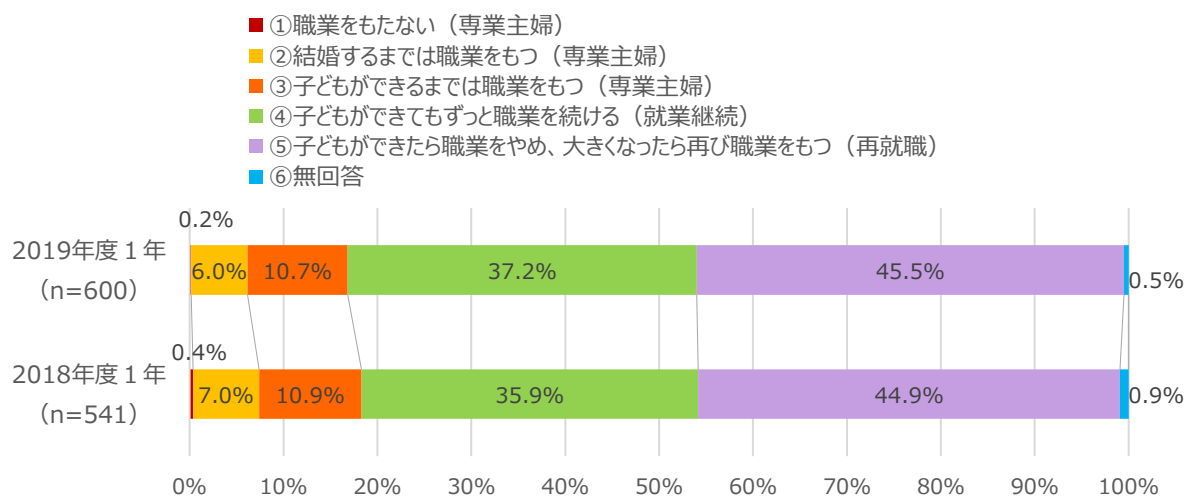
大学・短大を卒業した後の自分について、どのようなイメージを抱いていたかを知るために、「将来社会的に活躍できると思うか」、「どのような生き方をしたいか（希望のライフコース）」を尋ねた。ライフコースについての設問は、2021 年度以降に選択肢を変更したことと、実際のライフコース（どのような生き方をすることになると思うか）という設問を加えたことから、②（2018～2019 年度「希望」）、③（2021～2023 年度「希望」「実際」）の2つに分けて紹介する。

① 「将来社会的に活躍できると思うか」について



② 希望のライフコース

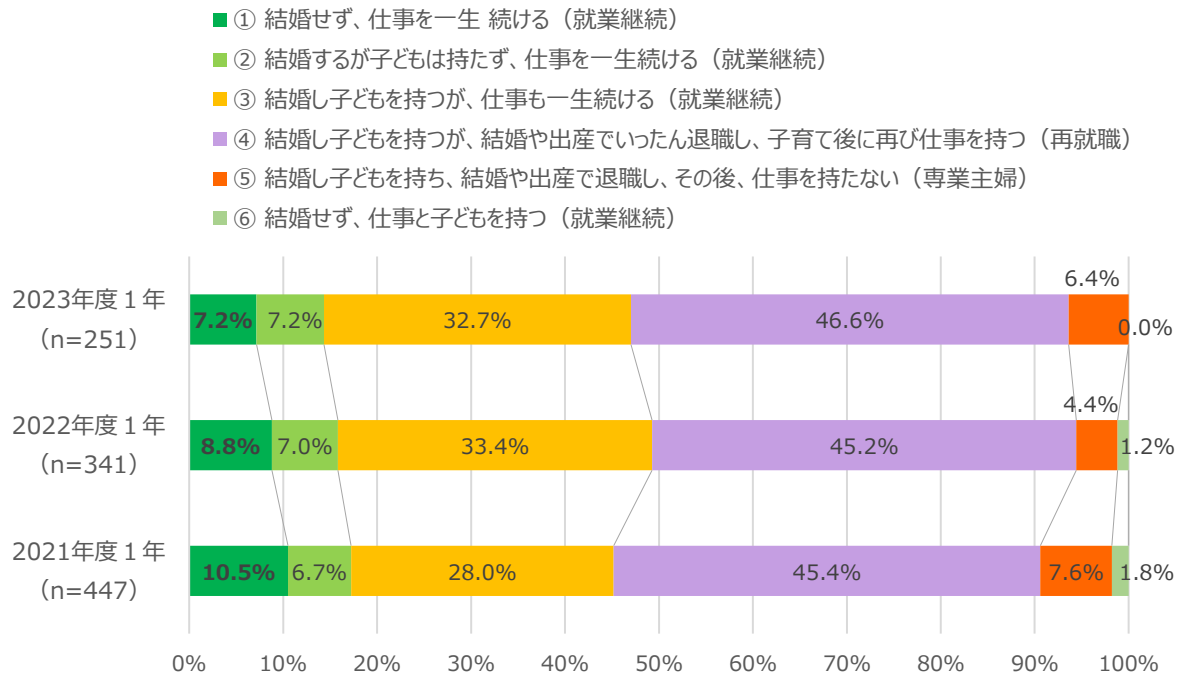
・2018 年度～2019 年度 1 年生



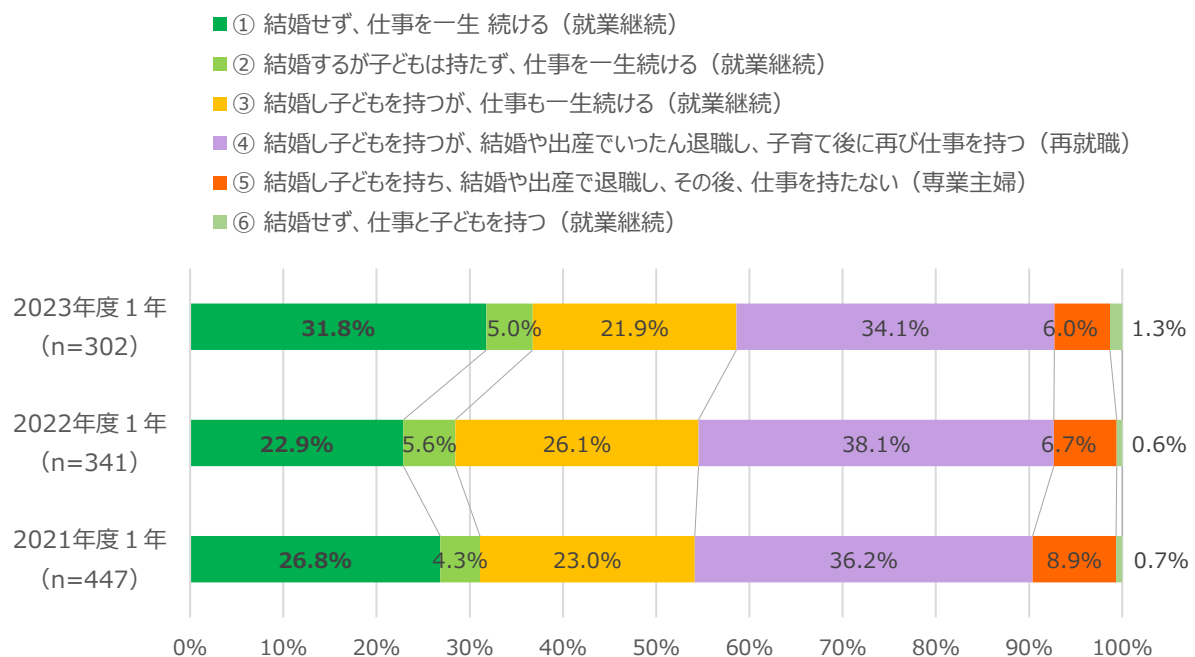
③ 希望のライフコースと実際のライフコース

希望するライフコースと、実際に予想されるライフコースを比較すると、「専業主婦」や「再就職」の割合よりも「就業継続」が増加しており、経済環境の厳しさや非婚化という世相を反映していると考えられる。

・2021年度～2023年度1年生（希望のライフコース）



・2021年度～2023年度1年生（実際のライフコース）



(2) 卒業予定者「キャリア意識に関するアンケート調査」

入学直後の1年生を対象とした意識調査に加えて、卒業直前の大学4年生および短大2年生に対しても継続して意識調査を行ってきた。入学時の調査では大学・短大を合わせた結果を掲載したが、卒業時には2年間の差があるため別々に紹介する。年度ごとの調査対象数、回収数、回収率、調査項目は以下の通りである。

・大学

卒業年度	調査期間	調査対象数	回収数	回収率(%)
2022年度	2022年12月～2023年3月	485	325	67.0
2021年度	2021年12月～2022年3月	463	202	43.6
2020年度	2020年12月～2021年3月	486	277	57.0
2019年度	2019年12月～2020年3月	432	219	50.7
2018年度	2018年12月～2019年3月	419	153	36.5

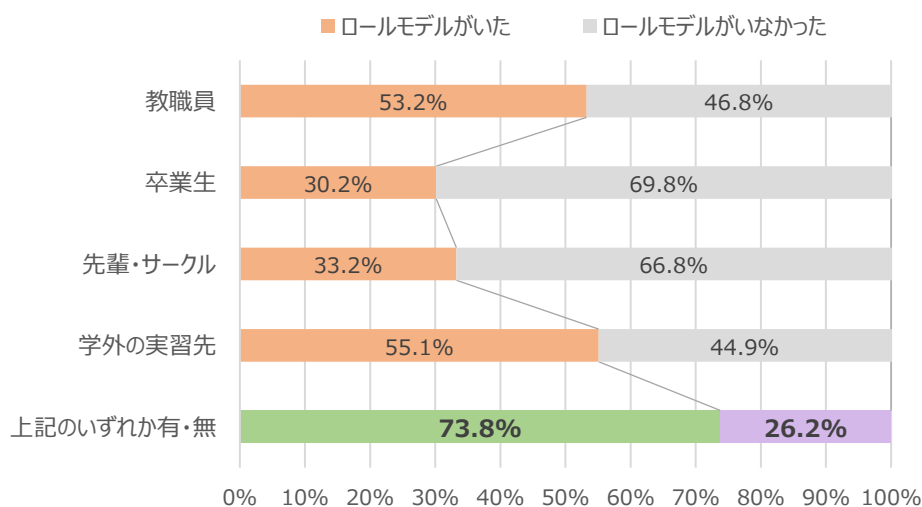
・短大

卒業年度	調査期間	調査対象数	回収数	回収率(%)
2022年度	2022年12月～2023年3月	52	43	82.7
2021年度	2021年12月～2022年3月	101	70	69.3
2020年度	2020年12月～2021年3月	93	38	40.9
2019年度	2019年12月～2020年3月	106	52	49.1
2018年度	2018年12月～2019年3月	114	85	74.6

1. ロールモデルとの出会い

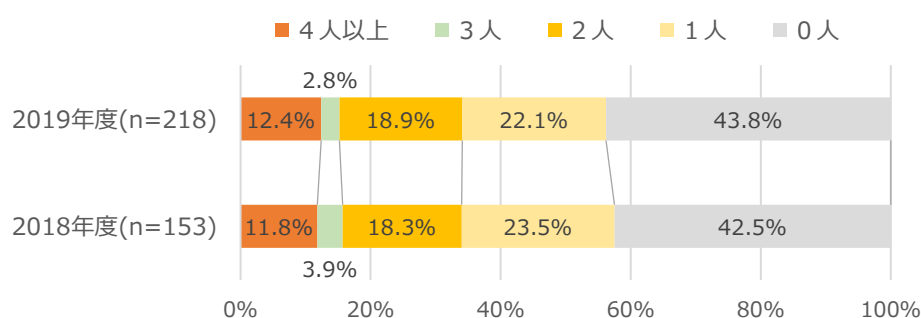
① 大学(2022年度とコロナ禍前)の結果

・2022年度 (n=325)



2021年度以前の調査では、在学中にキャンパスでロールモデルに出会った人数を尋ねていたが、2022年度は、ロールモデルに出会いそうな場面を設定して回答してもらった。その結果、半数を超える学生が、「学外の実習先（実習やインターンシップ）」、「教職員」にロールモデルを見出していた。

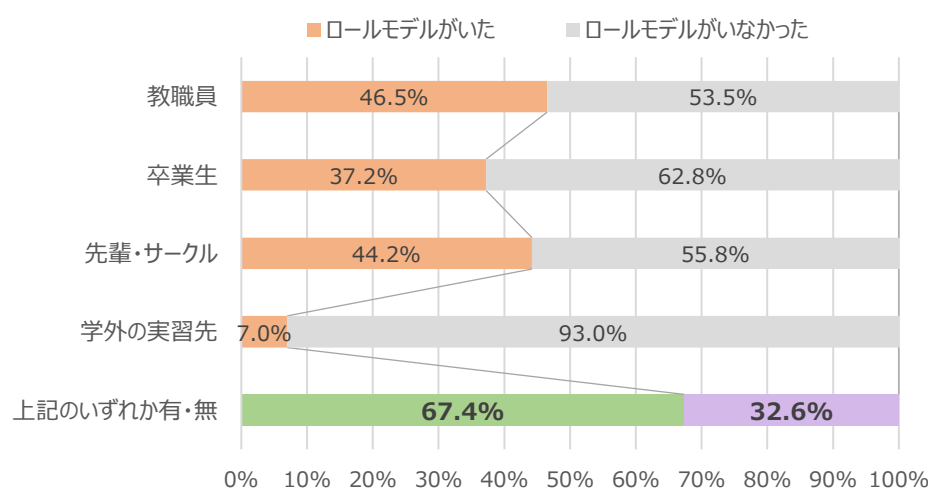
・ 2018～2019 年度（コロナ禍前）



2020 年度、2021 年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けて多くの活動が制限されたため、53～54%がロールモデル「0 人」と回答していた。ここではコロナ禍前の結果を掲載する。

② 短大(2022 年度とコロナ禍前)の結果

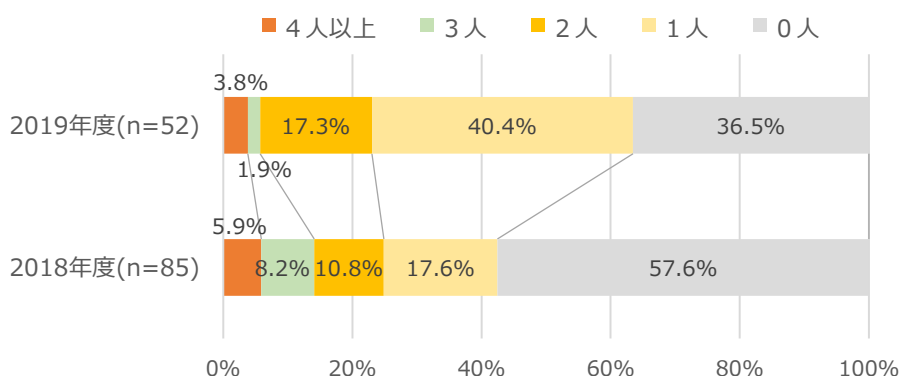
・ 2022 年度（n=43）



短大は在学年数が短いにもかかわらず、3 分の 2 を超える学生がいずれかの場面でロールモデルに出会っている。

大学は国家資格取得のための実習があるため「学外の実習先」が多かったが、短大は「先輩・サークル」が大学よりも多く選択されていた。

・ 2018～2019 年度（コロナ禍前）



2019 年度は 2018 年度よりロールモデル「0 人」が大幅に減少している。2020 年度、2021 年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け多くの活動が制限されたため、両年度とも 50%がロールモデル「0 人」と回答していた。

女性キャリア開発研究センターでは委員会を通して学科に調査結果をフィードバックし、ロールモデルに出会う機会を増やす方法を検討してもらっている。たとえば、卒業生による講演会、大学や学科のイベントへの上級生や卒業生の参加、研修報告会での卒業生との交流、卒業生が働く機関での実習などが挙げられている。

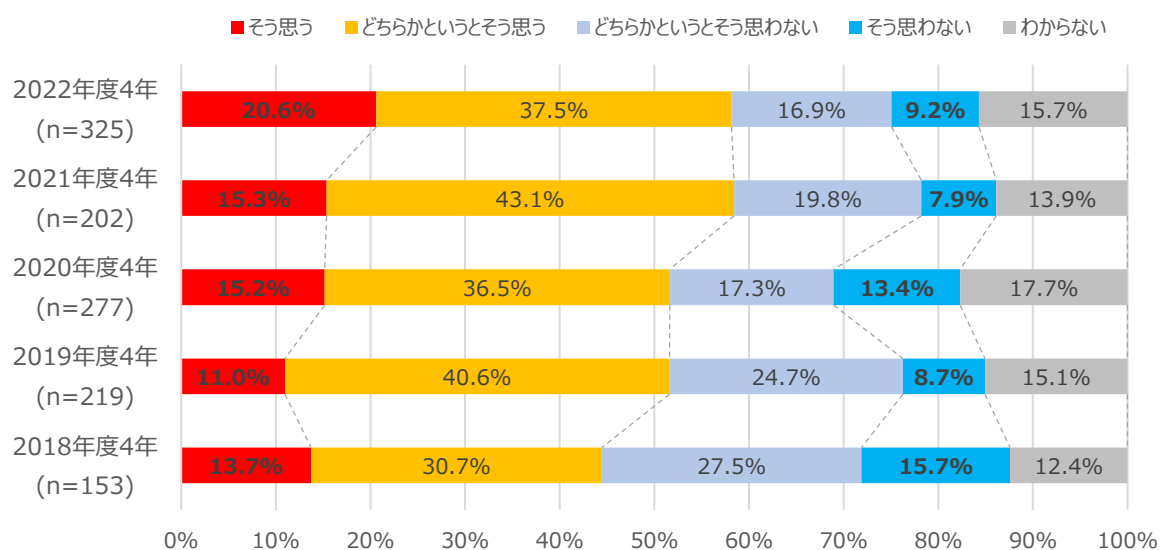
2. 卒業後のサポートについて

家庭の事情などで離職した女性が仕事に復帰するにあたっては、女性のためのリカレント教育の存在が重要である。本学においても、女性キャリア開発研究センターと地域連携推進センターが協働し、2019年度よりリカレントプログラムを開講している。受講者は少数ながら、毎年複数の修了生に「履修証明書」を交付している。

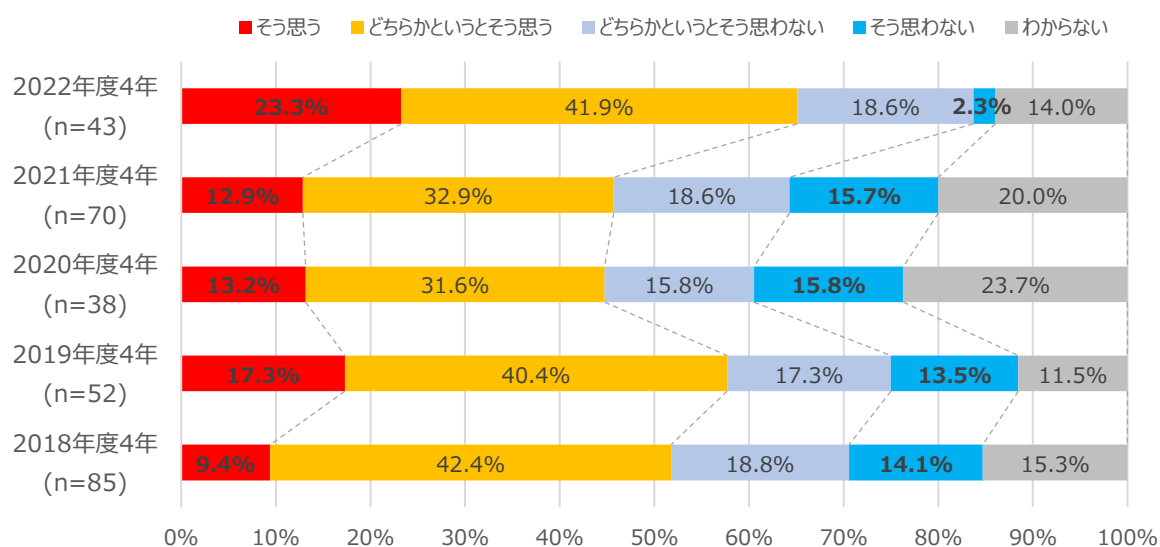
卒業後に本学にサポートしてほしいかと思うかどうかについては、大学・短大ともニーズが高まっているようである。卒業後してから5年・10年・20年経った卒業生にも同様の質問をしており、やはりニーズは高いが、現実には物理的な制約から参加できないという声が多く、更なるオンラインの活用が望まれる。

① 卒業後にサポートを希望するか

・大学



・短大

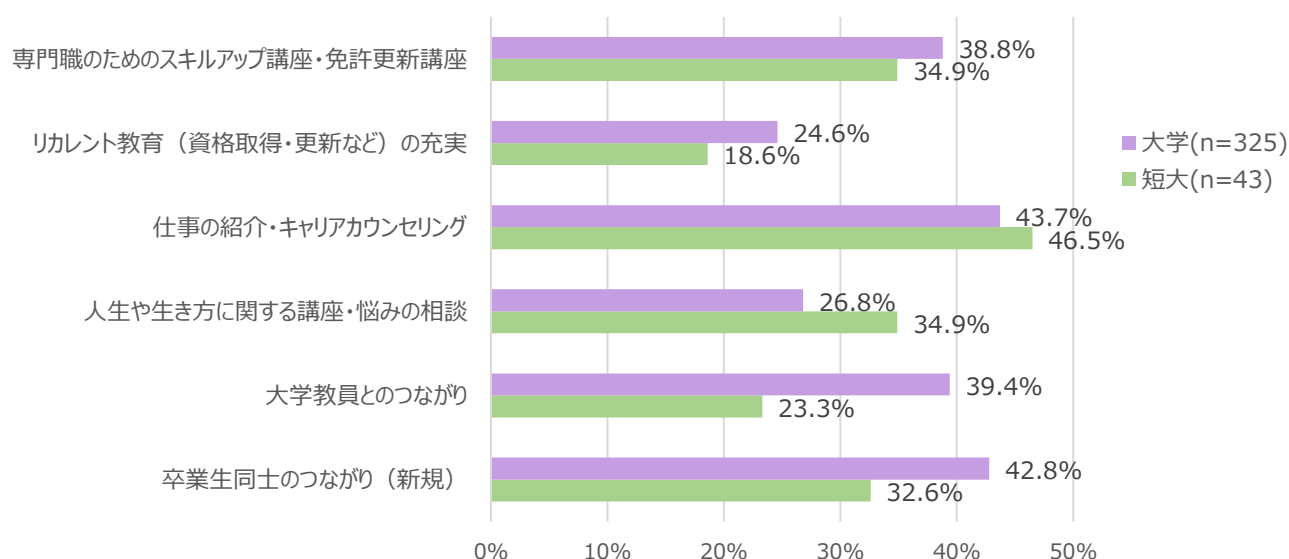


② 卒業後に希望するサポートの内容

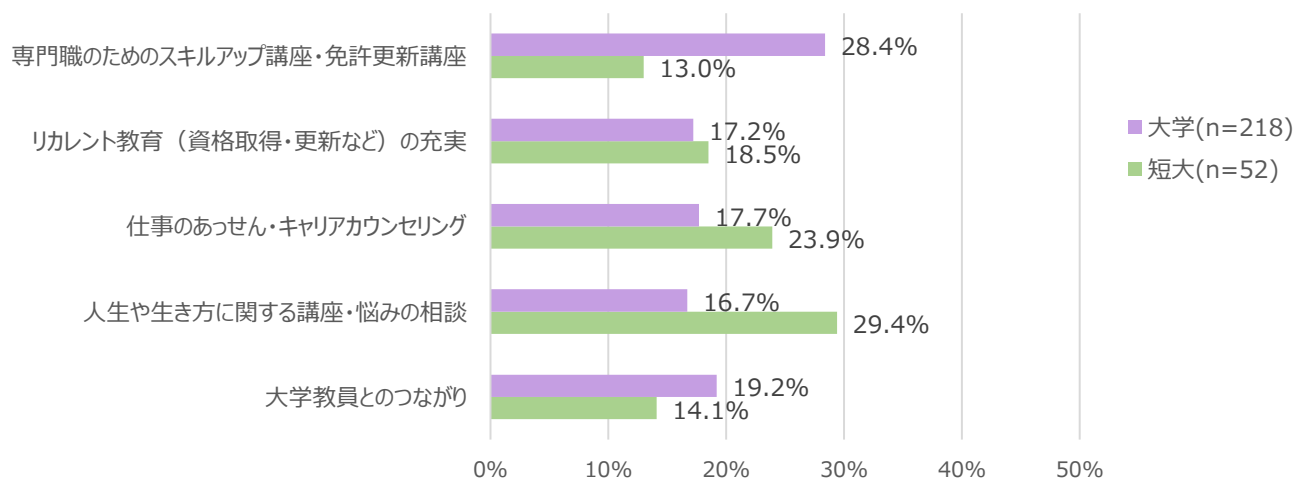
希望するサポートの内容については、2019 年度と 2022 年度卒業時の結果を紹介する。両者を比較すると、大学・短大とも全体的に数値が上昇しており、特に「仕事の紹介（あっせん）・キャリアカウンセリング」の割合が高くなっている。また、地域連携推進センターが実施している文化講座に卒業生との交流会を取り入れたところ非常に好評であったため、2022 年度は「卒業生同士のつながり」という選択肢を加えた。その結果大学では 4 割、短大では 3 割を超えており、予想以上に多く選択されていた。今後大学として卒業生同士のネットワークづくりに力を入れていく必要があるだろう。

大学・短大を卒業して年数の経った卒業生にも同じ質問をしているが、最も多く選ばれた項目は、「卒業後 10 年」の場合も「卒業後 20 年」の場合も、「リカレント教育の充実」（約 6 割）、「専門職のためのスキルアップ講座・免許更新講座」（約 5 割）、「仕事のあっせん・キャリアカウンセリング」（4～5 割）であった。

・2022 年度（大学・短大）



・2019 年度（大学・短大）



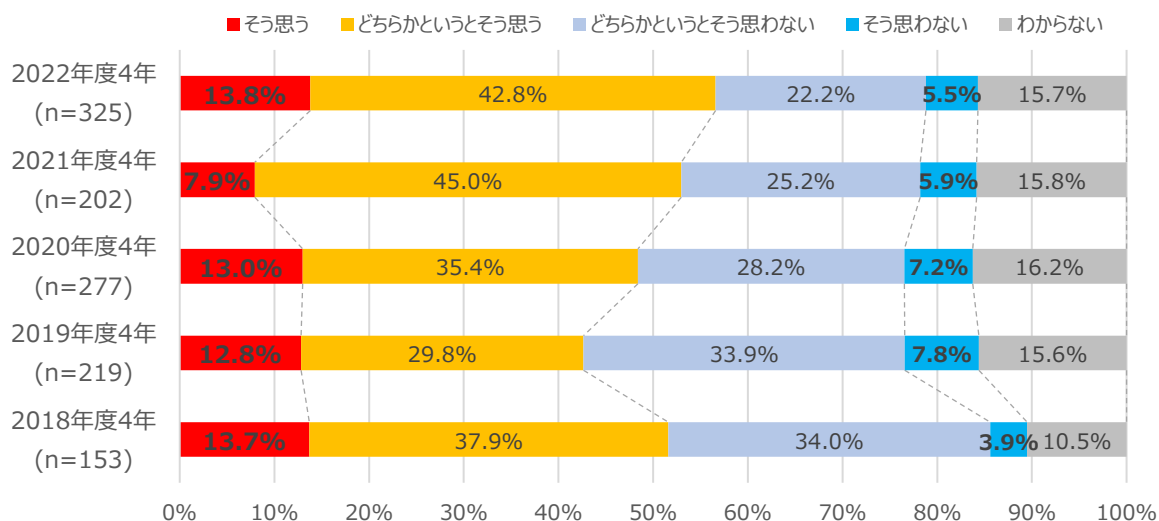
3. 将来についての考え方

大学・短大入学者に対して尋ねたときと同じように、卒業時にも「将来社会的に活躍できると思うか」と尋ねている。あわせて、「女性のライフコースについての考え方」も尋ねているが、2023年度は「希望するライフコース」に変更したため、ここでは2018年度～2022年度の結果を報告する。

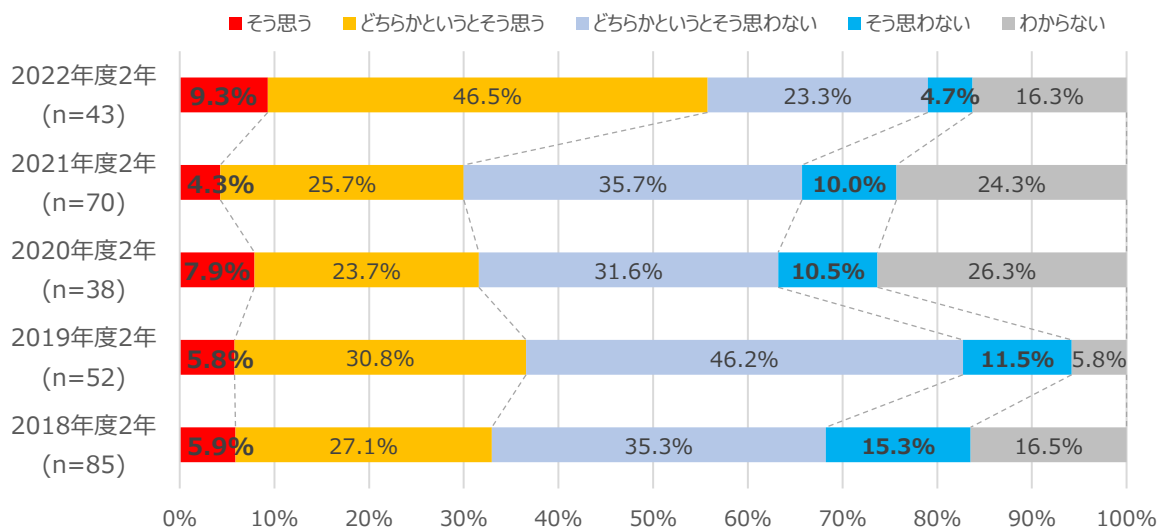
① 「将来社会的に活躍できると思うか」について

「将来社会的に活躍できると思うか」という設問に対して、「そう思う」「どちらかというと思う」「どちらかというと思わない」「そう思わない」「わからない」と回答した学生は、大学の場合2019年度を除いて概ね5割程度、短大の場合2021年度までは3割程度で、2022年度は5割であった。これは教育の成果といえるだろう。後述の「(3) 入学時と卒業時の意識の変化」でも述べているように、卒業時（大学）は「将来活躍できる」という回答が入学時より増加している。

・大学



・短大

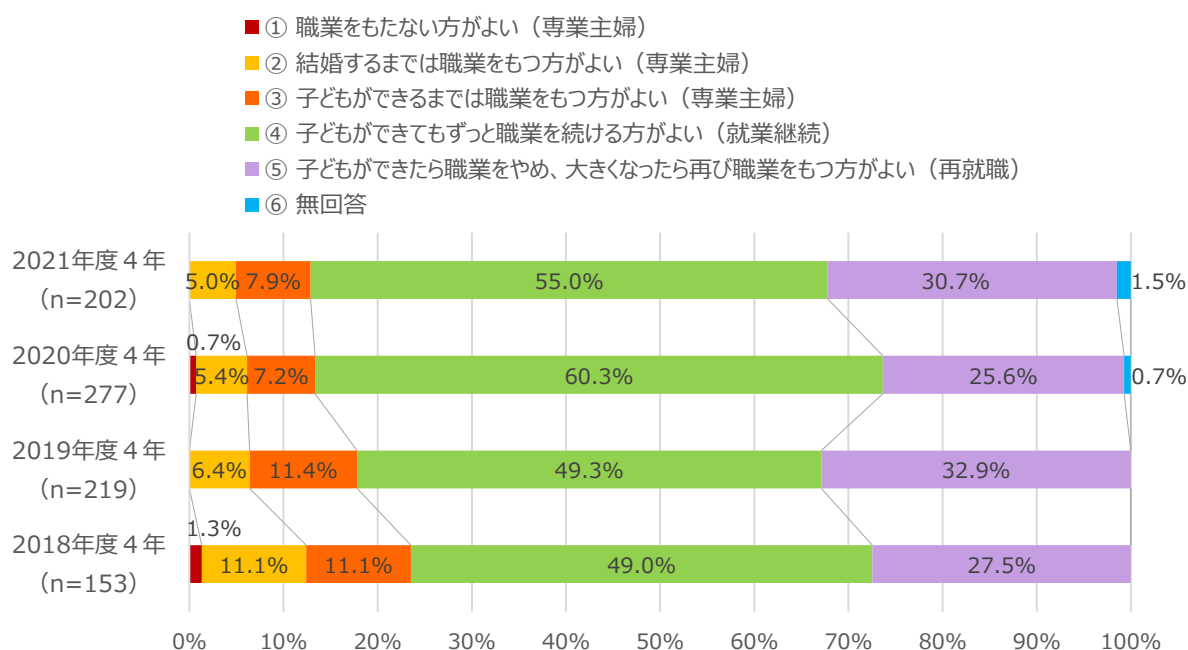


② 女性のライフコースについての考え方

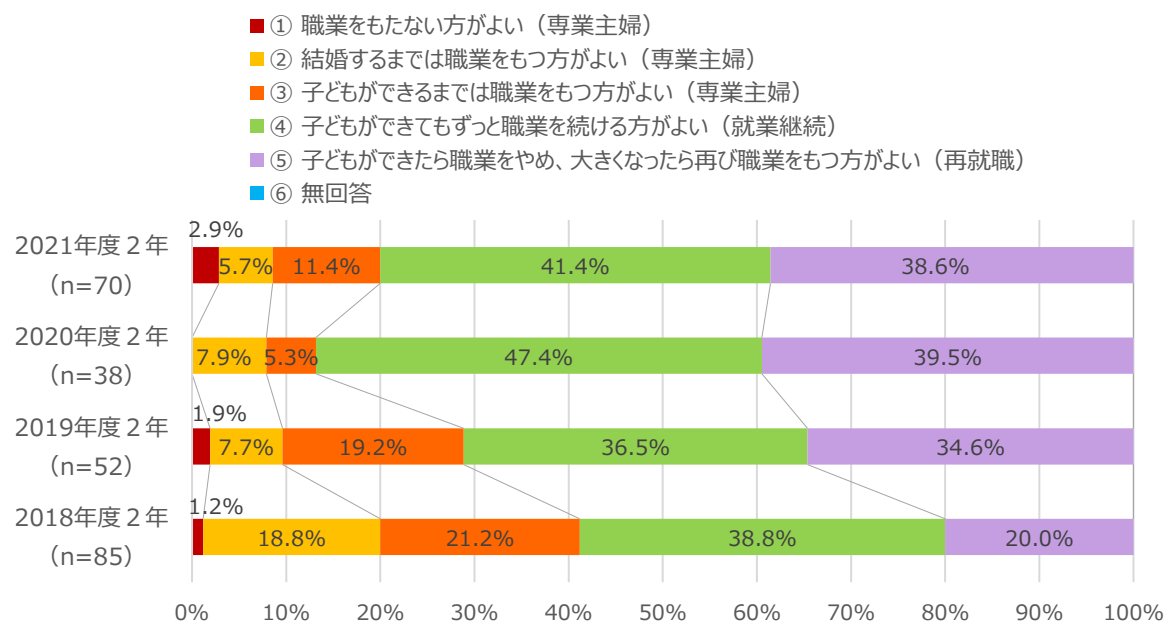
「女性のライフコース」についてどう考えるかを5つの選択肢から選んでもらった。大学の場合「子どもができてずっと働き続ける」という就業継続型が5～6割を占めていた。

2022年度は「将来希望するライフコース」について質問し選択肢も変更した。その結果大学・短大とも「就業継続型」（「結婚せず仕事を一生続ける」「結婚するが子どもはもたず仕事を一生続ける」「結婚し子どもをもつが仕事も一生続ける」）が約4割、「再就職型」が3～4割、「わからない」が約2割であった。

・大学



・短大



(3) 入学時と卒業時の意識の変化

入学時の考え方が卒業時に変化しているのかどうかについて、大学生の調査結果（「ジェンダー意識」、「社会的な活躍の可能性」）を同じ母集団で比較してみる。短大生については、対象者数が少ないため省略する。それぞれの年度の回収数、回収率は以下の通りである。

・大学

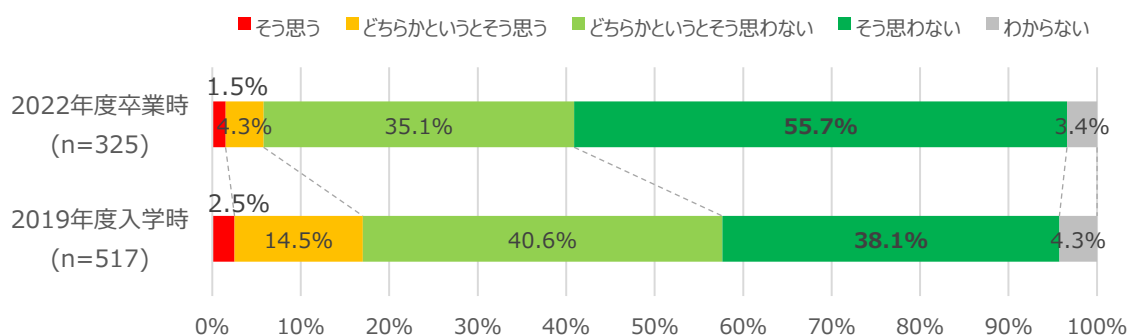
入学年度	回収数	回収率(%)		卒業年度	回収数	回収率(%)
2019 年度	517	96.1	→	2022 年度	325	67.0
2016 年度	400	88.3	→	2019 年度	219	50.7

1. ジェンダー意識の変化

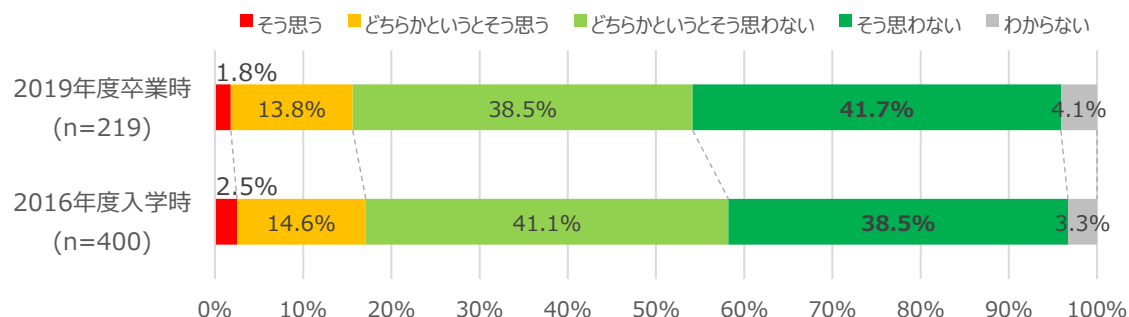
「夫は外で働き妻は家庭を守るべきである」という考え方について

ジェンダー意識（夫は外で働き妻は家庭を守るべき）については、「2016 年度 1 年生」の場合、卒業時もほとんど変化していないが、「2019 年度 1 年生」は卒業時に「そう思わない」と回答した割合が 2 割近く増加している。どちらの 1 年生も入学時の数値はほぼ同じであることから、「2019 年度 1 年生」の方が性役割分業に否定的な考え方が増えたといえる。

・2019 年度 1 年生が大学を卒業するとき



・2016 年度 1 年生が大学を卒業するとき



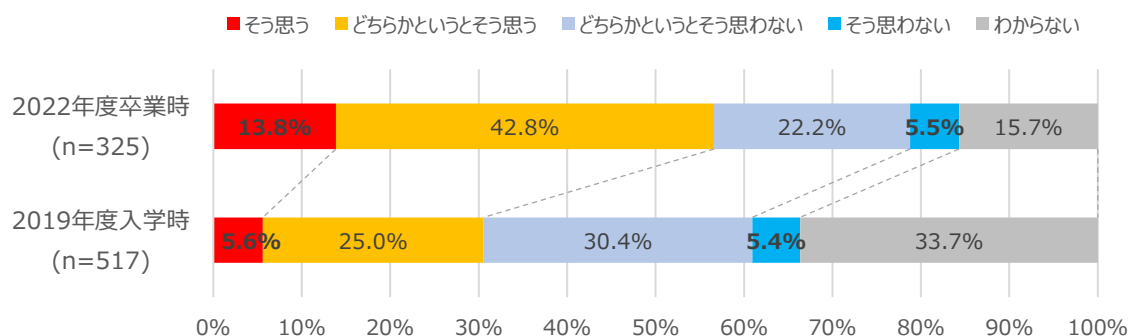
2. 将来についての考え方

「将来社会的に活躍できると思うか」について

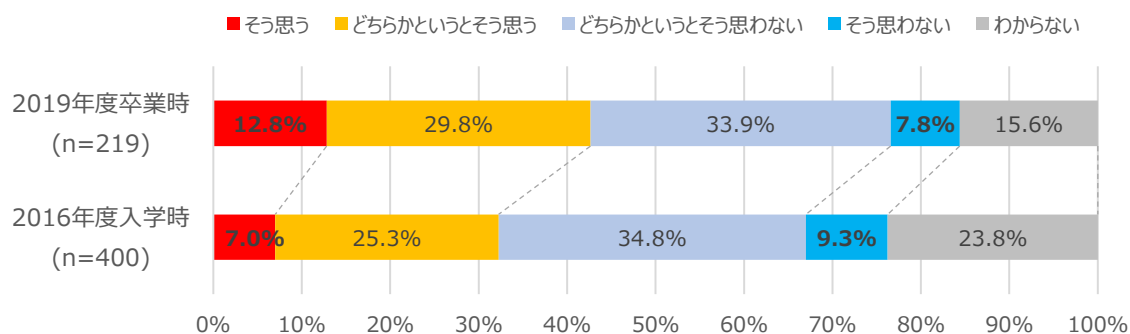
「将来社会的に活躍できると思うか」については、大学の場合、「2019 年度 1 年生」も「2016 年度 1 年生」も「そう思う」「どちらかというと思う」という回答が卒業時に増え、「わからない」が減少する傾向がみられた。大学生活を経て自信がついたり将来がイメージできるようになったりすることは教育の大きな成果であろう。

入学時と卒業時の調査結果は、女性キャリア開発研究委員会を通して各学科にフィードバックしている。学科からは、「卒業までに自信をつけることを学科の目標にしている。入学時 3 割が卒業時に 5 割超えしている点は効果があったことにつながるため、この値を高めていきたい」、「将来活躍できるという自信や自尊心が低いため、学生自身ができたと思えるように、ならびに、できたという認識をもてるように支援していくことが必要である」「社会で活躍できる女性としてリーダーシップをとることができる人を今後も育成したい」などの意見が挙げられている。

・ 2019 年度 1 年生が大学を卒業するとき



・ 2016 年度 1 年生が大学を卒業するとき



（４）卒業生「卒業後のキャリアに関するアンケート調査」

大学・短大の卒業生に対して、これまでアンケート調査を４回実施してきた。第１回は２０１７年度で、卒業して５年以内（２～５年）を対象に、卒業後の就職先（退職した場合はその理由）、現在の勤務先の状況や仕事の内容、最初の勤務先で必要とされた能力やスキル、男女ともに働き続けやすくなるために必要なもの、必要だと思う卒業生への支援、ジェンダー意識について質問した。

２回目は２０１９年度に、卒業して１０年前後（６～１５年）を対象に、３回目は２０２０年度に、卒業して２０年前後（１８～２６年）を対象に、それぞれ１回目と同様の調査を行った。そして４回目となる２０２２年度には、初回調査との比較をするために、卒業して５年以内（２～５年）の対象者にほぼ同様の質問を投げかけた。

それぞれの調査期間、回収数、回収率、対象者の卒業年は以下の通りである。

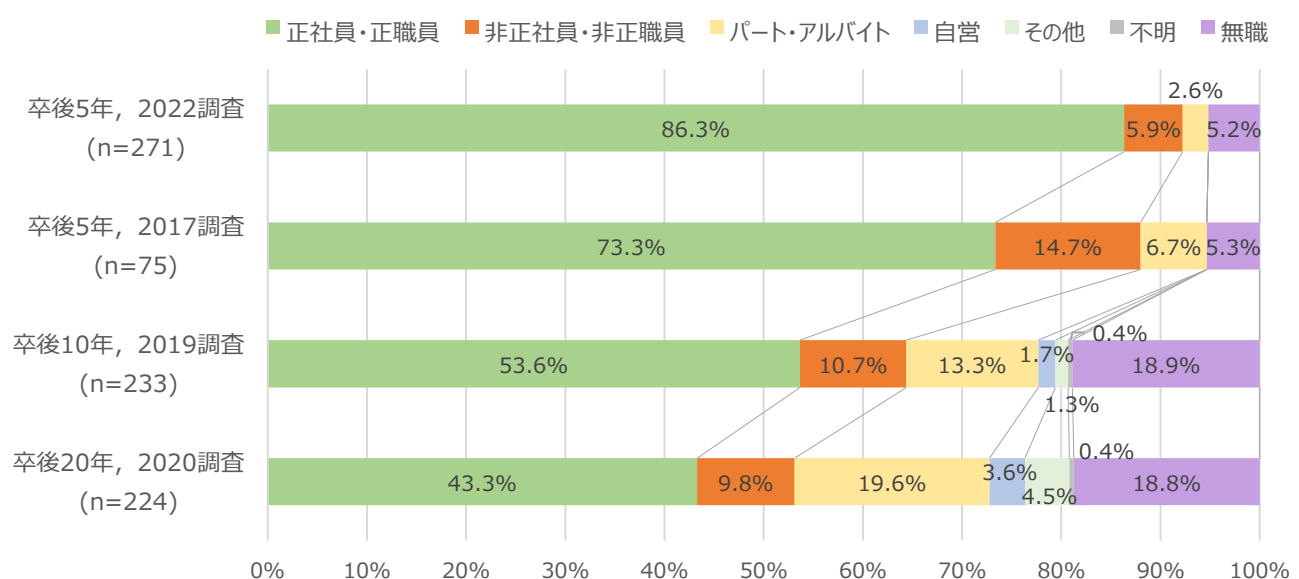
卒業生対象のアンケート調査一覧

調査年度	卒業後の年数（卒業年）	回収数	回収率(%)	調査期間
2022	卒後５年（２０１７年３月卒～２０２１年３月卒）	270	11.8	2022年７月～８月
2017	卒後５年（２０１３年３月卒～２０１６年３月卒）	75	9.0	2017年１２月～2018年１月
2019	卒後１０年（２００３年３月卒～２０１２年３月卒）	233	5.4	2019年７月～８月
2020	卒後２０年（１９９４年３月卒～２０００年３月卒）	224	4.9	2020年７月～８月

1. 調査時の就業状況

アンケート調査時に就業していた割合は、卒業後５年が９４．７％（２０１７調査）と９４．８％（２０２２調査）、卒業後１０年（２０１９調査）が８０．７％、卒業後２０年（２０２０調査）が８０．８％であった。（それぞれ「正社員・正職員」「非正社員・非正職員」「パート・アルバイト」「自営」「その他」「不明」「無職」の合計）

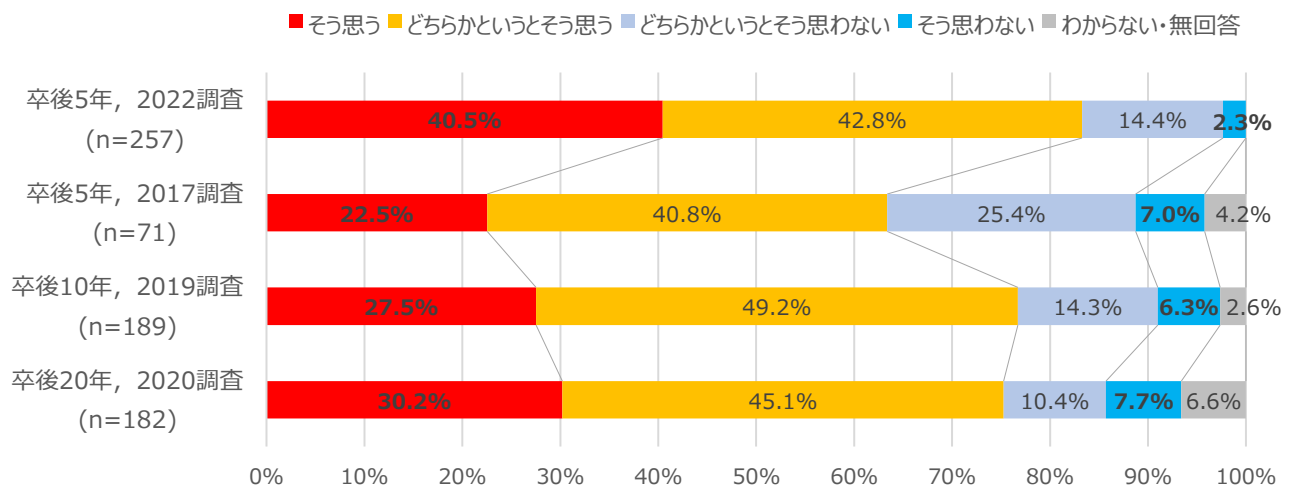
就業形態は多様であるが、卒業後５年で９割、卒業後１０年・２０年で８割が就業していることがわかった。



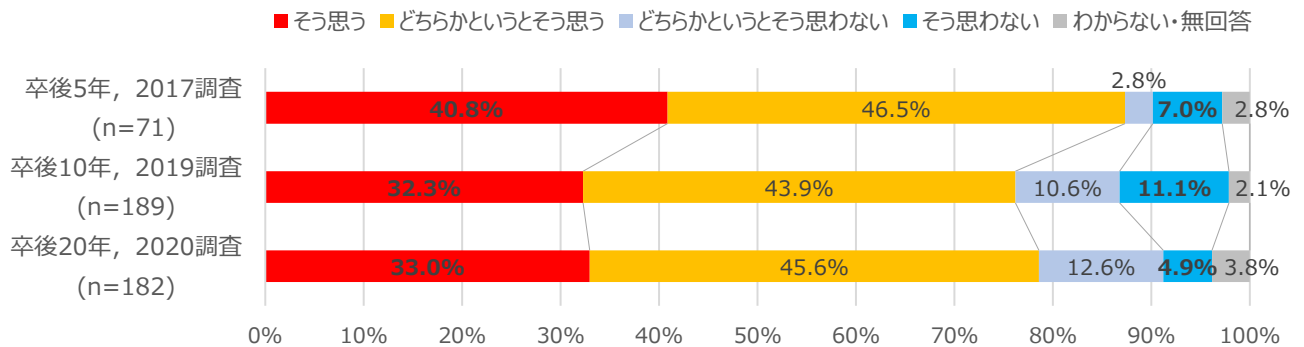
2. 現在の仕事の状況

現在就業中の卒業生には仕事に関する質問を行っているが、そのうち「全体的に働きやすい職場であると思う」に対して、2017 年度調査以外は 8 割前後が肯定的な回答をしている。また、「仕事のやりがい」「仕事のストレス」に関しては 2022 年度調査で尋ねていないため、2017・2019・2020 調査の結果を掲載した。

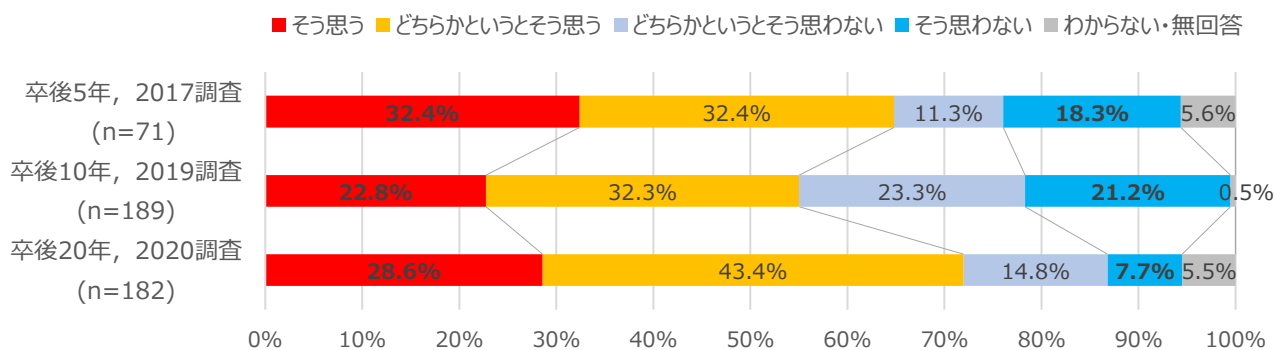
① 働きやすい職場である



② 仕事にやりがいを感じる



③ 仕事のストレスがある



3. 最初の勤務先を退職した人について

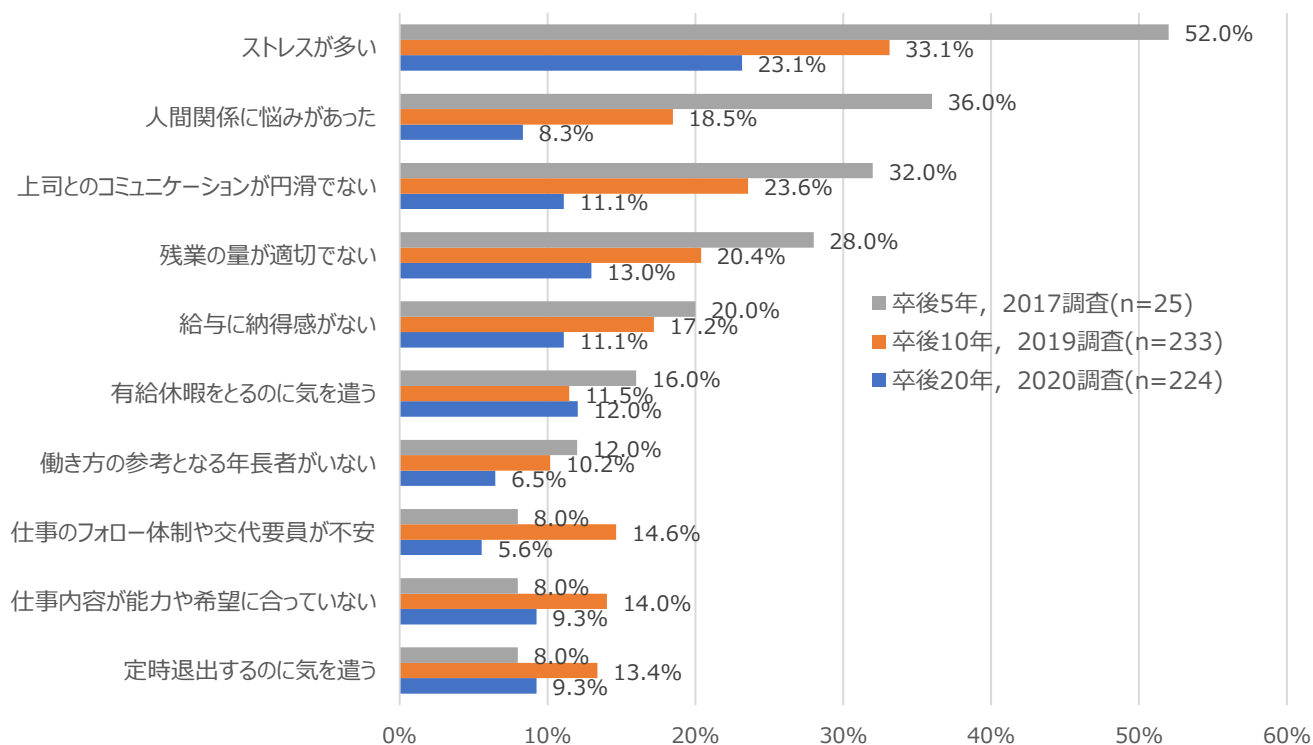
大学・短大を卒業後、最初の就職先を退職した割合は、2017年度調査（卒業後5年）で2～3割、2019調査年度（卒業後10年）で6割以上、2020年度調査（卒業後20年）では9割以上であった。退職した理由として最も多く挙げられたのは「ストレスが多い」で、どの調査でも1位であった。

2022年度調査（卒業後5年）では自由記述の形式で回答を求めた。その結果、「自身のキャリアに関すること：キャリアアップ」11件、「自身のキャリアに関すること：意欲喪失」4件、「労働時間、業務量に関すること」11件、「心身に関すること」10件、「同僚・上司に関すること」8件、「自身の環境の変化に関すること」8件、「給与に関すること」6件、「自身の能力・スキルに関すること」5件、「労働条件に関すること」5件、「労働環境に関すること」4件、「労働環境の変化に関すること」2件などが挙げられた。（自由回答をトピックごとに分類）

① 初職を退職した割合

	回収数	初職退職(人)	初職退職割合(%)
卒業後5年(2022調査)	271	64	23.6%
卒業後5年(2017調査)	75	25	33.3%
卒業後10年(2019調査)	233	157人	67.4%
卒業後20年(2020調査)	224	216人	96.4%

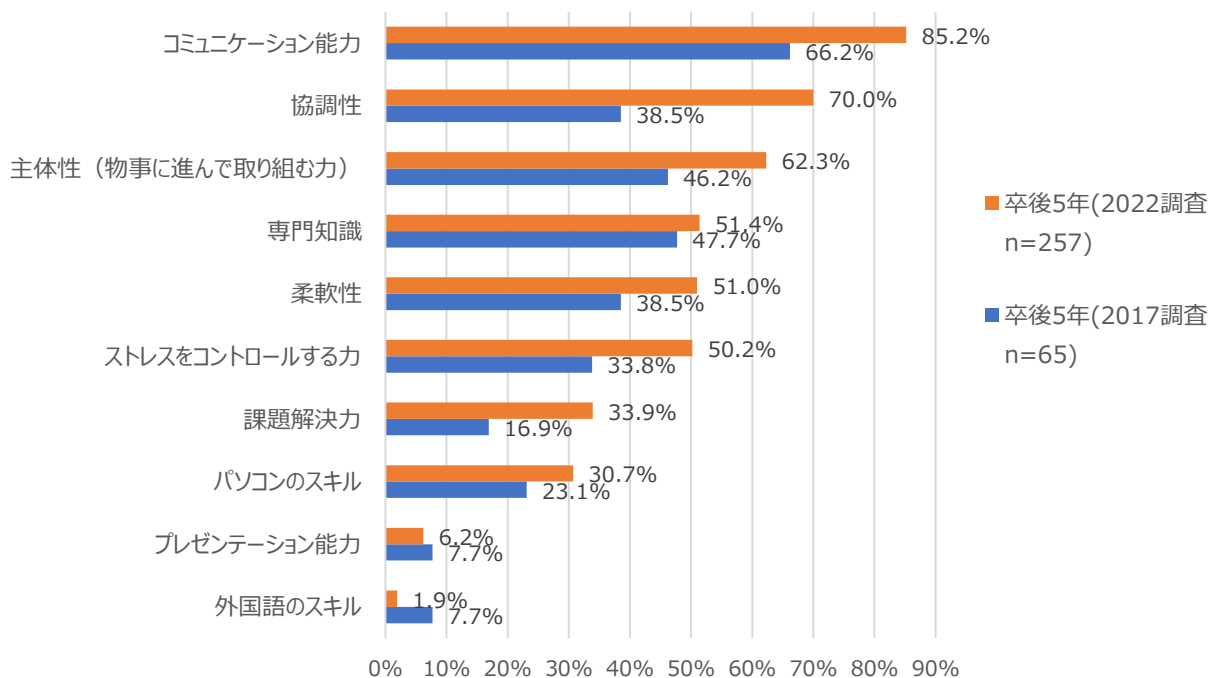
② 初職を退職した理由 上位10項目（複数回答）



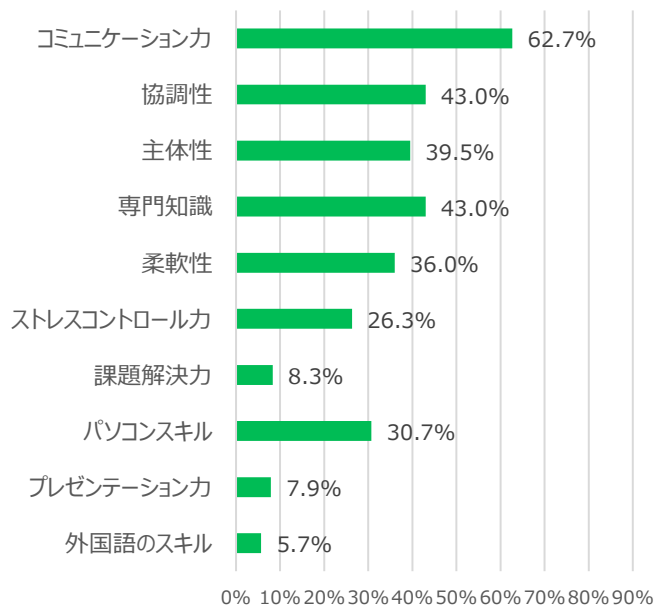
4. 最初の勤務先で必要とされた能力やスキル

最初の就職先で必要とされた能力やスキルについて尋ねたところ、いずれの調査でも1位は「コミュニケーション能力」、2位以下は「協調性」「主体性」「専門知識」「柔軟性」「ストレスをコントロールする力」などが続いている。

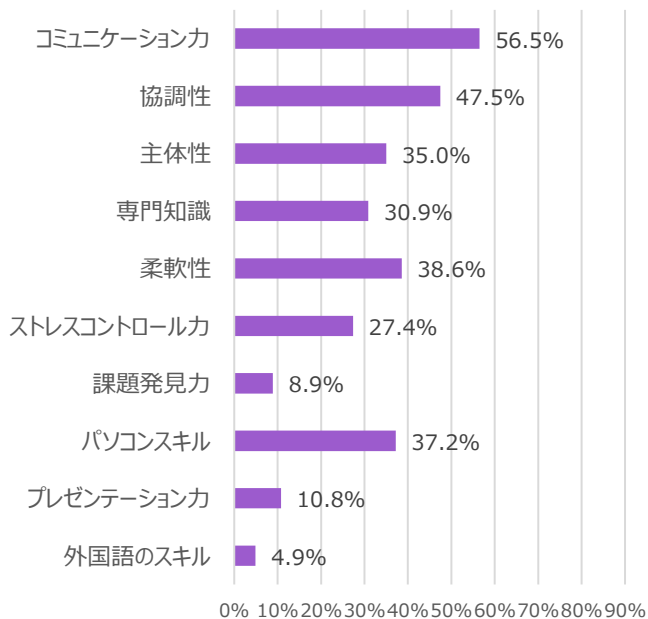
① 卒業後5年の場合 —2022 調査と 2017 調査の比較—



② 卒業後10年の場合(2019 調査)



③ 卒業後20年の場合(2020 調査)



（５）卒業生「卒業後のキャリアに関するヒアリング調査」

前述の「卒業後のキャリアに関するアンケート調査」では、同時にヒアリング調査への協力依頼を行い、応じてくれた卒業生のなかから、卒業年度・学科、職業に偏りがないよう10～15人の対象者を選び、聞き取りを行った。具体的には、2017年度調査で「卒業後5年」を15人、2019年度調査で「卒業後10年」を12人、2020年度調査で「卒業後20年」を10人、そして2023年度調査で再び「卒業後5年」13人を対象に、対面またはオンラインで、アンケート調査を補完するデータを収集した。

質問項目はアンケート調査と同様、卒業後の就職先（退職した場合はその理由）、現在の勤務先の状況や仕事の内容、最初の勤務先で必要とされた能力やスキルなどであるが、より具体的に詳細な内容を把握することができた。

卒業生対象のヒアリング調査一覧

調査年度	ヒアリング対象			調査期間
	卒業後の年数（卒業年）	人数	年齢	
2023	卒後5年（2018年3月卒～2021年3月卒）	13	24～28	2023年8月
2018	卒後5年（2011年3月卒～2016年3月卒）	15	22～28	2018年5月～8月
2019	卒後10年（2003年3月卒～2012年3月卒）	12	29～39	2019年11月～2020年1月
2020	卒後20年（1994年3月卒～2000年3月卒）	10	42～48	2021年1月～4月

1. 「卒業後5年」ヒアリング調査結果

① 2023年度調査(13人)

2022年度に実施した「卒業後5年（2～5年）」対象の卒業生アンケート調査に回答した270人のうち、再調査への協力依頼に応じた13人にオンライン（Zoom）でヒアリングを行った。

	卒業学科/専攻	卒業年	卒業後の年数	勤務先	就業形態	勤続年数	職種/仕事内容	専門職
A	キャリア形成	2018	5	アパレル販売	正規	5	店長	非
B	キャリア形成	2019	4	スタジオ	正規	6か月	カメラマン	非
C	こども教育	2019	4	幼稚園	正規	2	幼稚園教諭	専
D	こども教育	2021	2	保育園	正規	2	保育士	専
E	健康栄養/管理栄養士	2018	5	給食事業委託	正規	5	管理栄養士	専
F	健康栄養/管理栄養士	2020	3	病院	正規	3	管理栄養士	専
G	健康栄養/健康スポーツ	2019	4	こども園	正規	4	栄養士	専
H	心理	2020	3	福祉施設	正規	3	生活支援員	非
I	看護	2018	5	病院	正規	5	看護師	専
J	看護	2019	4	病院	正規	4	看護師	専
K	医療福祉/言語聴覚	2019	4	病院	正規	4	言語聴覚士	専
L	ライフデザイン（短大）	2019	4	ホテル	正規	6か月	フロントデスク	非
M	ライフデザイン（短大）	2020	3	旅客輸送	正規	3	事務	非

ヒアリング調査では、アンケート調査結果をもとに「専門職志向」かどうか、「働きやすい職場」と思っているかどうかで4つのグループに分類し、就業継続の理由を分析した。ここでは卒業生の言葉を紹介する。

	専門職志向	非専門職志向	計
現在の職場は「働きやすい」と思う	C, D, E, F, G, K	A, B, H, L	10
現在の職場は「働きにくい」と思う	I, J	M	3
計	8	5	13

(ア)「働きやすい職場である」と思う理由

(a)「専門職志向」6人（やりがいを感じる、相談できる人がいる、コミュニケーションが円滑）

・「皆でみる」という理念のもと、行事に参加したり給食会議に出たり「おはし指導」をするなど、保育士と一緒に子どもたちに関わっている。ランチルームと保育室がつながっているため、子どもたちの反応がすぐにわかる。ごちそうさまとか、おいしかったと言われるので、やりがいがある。先輩の栄養士が、おやつマイスターや離乳食アドバイザーの資格をとったり保育士の勉強をしているので、自分もこうなりたいと思う。(Gさん/栄養士)

・以前、他職種の同僚とうまくいかなかったときに退職を考えたが、病棟を変えてもらって乗り越えた。自分のことを大事にしてくれる上司がいるかどうかが大事。悩んでいることない？と気にかけてくれる。一人で病棟を動いているのでとてもありがたい。理学療法士、作業療法士たちとの関係も良好で、きょうだいや家族のよう。(Kさん/言語聴覚士)

(b)「非専門職志向」4人（職場のコミュニケーションが円滑、人間関係に悩みがない）

・もし退職したら、他の施設に勤めるより他の仕事についての方がよいと思うほど環境の良い職場。管理職は人を大事にしてくれるし、お手本になる専門職もいる。育休をとった女性もいるし、男性も子煩悩。世話好きな人が多く人間関係に悩みがない。重度の障がいのある方のお世話をする仕事は自分に向いているし、やりがいがある。(Hさん/生活支援員)

(イ)「働きやすい職場である」と思わない理由

(a)「専門職志向」2人（働き方の参考になる年長者がいらない、ストレスが多い）

・ICUにいるので重症者を一人で担当する。ひとつのミスが命にかかわるのでストレスを感じる。口調がきつい先輩がいると相談しにくい雰囲気になり、これもストレスになる。また、働き方の参考となるような年長者が見つからず、今後のイメージがわからない。今度はここに行ったらいいよというアドバイスがあったら・・・と思う。そのほか、若手の教育や会議の準備、意見の収集など、看護以外の業務が多い。(Jさん/看護師)

(b)「非専門職志向」1人（仕事のフォロー体制に不安、ストレスが多い）

・決められた通りに残業報告をしているのに、ネチネチ言う上司がいるとストレスになる。入社時（2020年）はコロナ禍で仕事量が少なく早く帰宅することができたが、その後回復してきたため、仕事が大変になってきている。所属部署の人員が足りていないため残業が多く、仕事のフォロー体制も不十分。業務が遅れているのに他部署へ応援に行かされることがある。(Mさん/事務)

また、ヒアリング調査では、「最初の勤務先で必要とされた能力やスキル」についても確認した。対象者に最も多く選択された項目は、専門職・非専門職を問わず「コミュニケーション能力」（12人）であった。

- ・発達に遅れがある子どもたちを預かっているため、保育士同士のコミュニケーションが大事。親たちとの信頼関係を築くために毎日子どもの様子を伝えている。(Dさん/保育士)
- ・仕事は基本的にチームで行う。特に重要なスキルは「コミュニケーション能力」と「主体性」。利用者さんに説明したりするのに「コミュニケーション能力」は必要。自分は苦手なほうなので本を買って読んだりして勉強した。(Fさん/管理栄養士)
- ・「専門知識」も必要だが、他の診療科とも関係しているため、より「コミュニケーション能力」が必要。治療の方法について、医師の思い、患者本人の思い、家族の思いを伝えていくためにも必要。(Iさん/看護師)
- ・最も重要なのは「コミュニケーション能力」。他の専門職の人たちと話しをする、多様な患者さんと話をする、専門知識を増やす・活かすためにも必要。(Kさん/言語聴覚士)
- ・ホテルマンとして、「コミュニケーション能力」「協調性」「柔軟性」が大事。(Lさん/フロントデスク)

② 2018年度調査(15人)

2017年度に実施した「卒業後5年(2～5年)」対象の卒業生アンケート調査に回答した75人のうち、再調査への協力依頼に応じた15人に対面でヒアリングを行った。

	卒業学科/専攻(学部)	卒業年	卒業後の年数	勤務先	就業形態	勤続年数	職種/仕事内容	専門職
A	人間関係/心理	2011	7	教育・学習支援	非正規	2	スクールカウンセラー	専
B	人間関係	2013	5	小売	正規	5	販売	非
C	人間関係/心理	2013	5	医療・福祉	パート・アルバイト	1	ケアワーカー	非
D	心理(人文)	2014	4	製造・販売	正規	4	販売	非
E	日本語文学(文)	2015	3	情報通信	正規	3	販売	非
F	キャリア形成	2016	2	医療・福祉	正規	2	事務	非
G	キャリア形成	2016	2	医療・福祉	正規	2	生活支援員	非
H	健康栄養/管理栄養士	2015	3	小売	パート・アルバイト	2か月	管理栄養士	専
I	健康栄養/管理栄養士	2016	2	その他サービス	契約	2	管理栄養士	専
J	看護	2016	2	医療・福祉	正規	2	看護師	専
K	看護	2016	2	教育・学習支援	正規	4か月	看護師・教員	専
L	こども保育(短大)	2016	2	教育・学習支援	正規	2	幼稚園教諭	専
M	こども保育(短大)	2016	2	教育・学習支援	正規	2	幼稚園教諭	専
N	ライフデザイン(短大)	2015	3	卸売	正規	3	事務	非
O	ライフデザイン(短大)	2016	2	情報通信	正規	2	営業補助	非

ヒアリング調査では、アンケート調査結果をもとに「専門職志向」かどうか、「働きやすい職場」と思っているかどうかで4つのグループに分類し、就業継続の理由を分析した。ここでは卒業生の言葉を紹介する。

	専門職志向	非専門職志向	計
現在の職場は「働きやすい」と思う	I, K, L, M	B, D, F, G, O	9
現在の職場は「働きにくい」と思う	A, H, J	C, E, N	6
計	7	8	15

(ア)「働きやすい職場である」と思う理由

(a)「専門職志向」4人（やりがいを感じる、能力を発揮できる）

- ・「新人のときよりは任せてもらえることが多くて（略）日常の仕事の中で任せてもらえることも増えましたし、下も入ってきたりしているし、パソコン業務も比較的多いので、大学でやってきたことはなかなか役に立っています。」（Iさん/管理栄養士/ただし資格が十分活かせていないため転職を検討中）
- ・「割と自由にさせてもらえてるので、自分が得意なこと、たとえば私は機械いじりが得意なので、見やすい資料を作るとか、そういうのが得意なので、そういうのを任せてもらっています。前の職場よりは役に立ててのかなってというのは思っています。」（Kさん/看護師・教員）
- ・「自分がやりたいことがすごいできるので、遊びにしても、制作にしても、先生がやりたいように子どもに教えたらいいよって感じなので。私も音楽がすごい好きなので、子どもたちに音楽をたくさん教えたりとか好きなので、その仕事で能力発揮できるのかなと思いました。」（Lさん/幼稚園教諭）

(b)「非専門職志向」5人（コミュニケーションが円滑、定時退出に気を遣わない、参考になる年長者あり）

- ・「先輩とかにはすごく恵まれていたので、人間関係にちょっと支えられたところもあるかなと思いますね。やっぱり失敗しても先輩がフォローしてくれたりとか、それなりにいろんなことをしてくれたりしたので、人間関係が良かったから続けてこられたっていうところはありますね。」（Bさん/販売）
- ・「夜勤明けの日に残業する人が多くて。やることが多くて。逆にその分、日勤で入るときはもう定時でみんなぱっと帰るっていう感じです。（略）トラブルがあれば、定時であがれないときもあって。ですけど、それ以外は全然、定時であがるわってときもあります。はよ帰りやとか言われますよ。」（Fさん/事務）
- ・「私の部署の一番上のかたで30代のかたなんです。（略）人間関係の作り方がすごいまいというか（略）ちゃんと事業部にとってもお客様にとってもこれをやることで利益があるとか、いいことがあるっていうのをちゃんと伝えて仕事をする方なので、みんなやる気になるっていう感じの人なんです。」（Oさん/営業補助）

(イ)「働きやすい職場である」と思わない理由

(a)「専門職志向」3人（責任が重い、ストレスが多い）

- ・「新人のときに持たしてもらった患者さんとしては重症すぎて、もしこの人に何かあったときに、自分が異変を察知できるだけの能力がなかったら発見が遅れます。その遅れることが患者さんの命に直結してるってことがわかってきたとき一番怖かったですね。（略）先輩たちとかかわる人間関係がほとんどだし、女性社会でうわさがすぐ回るっていうのもあるので気は使いますね。こんなこと話していいのかなっていう。（略）それが半分くらいで、あとは仕事で、家族さんとか患者さんに関わっていく中で感じるストレスっていうのは結構あって。」（Jさん/看護職）

(b)「非専門職志向」3人（責任が重い、有休休暇を取るのに気を遣う、定時退出するのに気を遣う）

- ・「辞める人が多いんですよ。3年どころではないです、1年とか。入れ替わりが激しいので、どうしても中途の採用は常に取っている状態。（略）私も今、役職でいうと特にないのでスタッフなんですけど、ただ、仕事内容で見ると店長とそう変わらない。（略）私がおその日を抜けたりしてしまったとか、そうなったらもう仕事がどっとたまってしまうって。結構それでまた納期がずれるっていうふうに言われたりとか、結構責任重大ですね。何とかはなるんですけども、抜けてしまったらあんまりほかの人に見てもらえないっていう感じで。」（Eさん/販売）

2.「卒業後 10 年」調査結果

2019 年度調査(12 人)

2019 年度に実施した「卒業後 10 年（7～16 年）」対象のアンケート調査に回答した 233 人のうち、再調査への協力依頼に応じた 12 人に対面でヒアリングを行った。

	卒業学科/専攻（学部）	卒業年	卒業後の年数	勤務先	就業形態	勤続年数	職種/仕事内容	専門職
A	英文（文）	2003	16	情報通信	正規	16	事務	非
B	人間関係/情報	2006	13	製造	正規	5	事務	非
C	人間関係/健康	2006	13	小売	正規	13	管理栄養士	専
D	人間関係/健康	2012	7	医療・福祉	正規	5	管理栄養士	専
E	人間関係/心理	2009	10	小売	正規	7	販売	非
F	人間関係/心理	2011	8	医療・福祉	正規	5	精神保健福祉士	専
G	人間関係/社会福祉	2010	9	医療・福祉	正規	2	社会福祉士	専
H	人間関係/社会福祉	2012	7	医療・福祉	パート	4	営業・事務	専
I	こども保育（短大）	2009	10	教育・学習支援	正規	5	幼稚園教諭	専
J	こども保育（短大）	2009	10	教育・学習支援	正規	10	保育士	専
K	ライフデザイン（短大）	2011	8	運輸（鉄道）	正規	8	輸送・運転	非
L	ライフデザイン（短大）	2009	10	小売	パート	10 か月	販売	非

このヒアリング調査では、同年度に実施したアンケート調査の回答結果をもとに、現在の仕事の状況を「専門職志向」「非専門職志向」に分けて就業継続の促進要因と阻害要因を探った。特に初職を継続している場合は「働きやすい職場である」と認識している対象者が多く、就業継続の促進要因が把握しやすい。

アンケート調査結果によれば、「専門職志向」の卒業生は「非専門職志向」に比べ、現在の仕事について「ポジションに比べて責任が重い」、「ストレスが多い」、「定時退出するのに気を遣う」といった就業継続の阻害要因と考えられる項目に「そう思う」と回答する割合が高く、初職を継続している割合も「非専門職志向」より少なかった。

一方ヒアリング調査によれば、初職を継続し、かつ働きやすい職場であると思っている対象者は 2 人であった。具体的には、「専門職志向」の C さん（管理栄養士/勤続 13 年/学生時代から就業継続を意識し入社時から商品開発希望であることを表明し続けキャリアアップ）、「非専門職志向」の K さん（勤続 8 年/夜勤は大変だが仕事内容は自分に合っており目標となるロールモデルもいる）の事例である。両者に共通していたのは、仕事そのものに関する要因（能力を発揮できる仕事である、責任ある仕事ができる、仕事内容は能力や希望に合っている、仕事にやりがいを感じている）、職場環境に関する要因（上司や同僚とのコミュニケーションは円滑、仕事のフォロー体制に不安はない、ストレスはない）であった。

反対に、初職を退職し現在の職場も働きやすいと思っていない対象者は 3 人で、うち「専門職志向」の D さんと I さんは、「仕事内容は能力や希望に合っており能力を発揮できて責任ある仕事ができるが、人間関係に悩みがありストレスが多い」と言う。「非専門職志向」の E さんも、仕事内容と職場への不満に加え人間関係の悩みとストレスを抱えており、資格を取って転職したいと話していた。

3. 「卒業後 20 年」調査結果

2020 年度調査(10 人)

2020 年度に実施した「卒業後 20 年（18～25 年）」対象のアンケート調査に回答した 224 人のうち、再調査への協力依頼に応じた 10 人にオンライン（Zoom）でヒアリングを行った。

	卒業学科/専攻（学部）	卒業年	卒業後の年数	勤務先	就業形態	勤続年数	職種/仕事内容	専門職
A	日本文学（文）	1994	26	医療・福祉	正規	13	生活支援員	管理
B	日本文学（文）	1994	26	教育・学習支援	自営	25	ピアノ講師	専
C	英米文学（文）	1996	24	貿易	正規	18	社長	経営
D	英米文学（文）	1997	23	教育・学習支援	正規	12	中学教員	専
E	日本語日本文学（文）	1998	22	教育・学習支援	正規	6	中高教員	専
F	人間関係（文）	2000	20	医療・福祉	正規	14	事業所経営	経営
G	生活（短大）	1995	25	教育・学習支援	正規	3	支援学校教員	専
H	生活（短大）	1994	26	医療・福祉	正規	16	看護師	専
I	生活（短大）	1999	21	公務	非正規	8 か月	キャリアカウンセラー	専
J	生活（短大）	1996	24	製造・卸売	正規	24	事務	非

本学は専門職（医療・福祉分野、栄養士、保育士、教諭）の養成課程が多いため、「専門・技術的な仕事」に従事する割合が高い傾向にあるが、「卒業後 20 年」の卒業生へのアンケート調査では約 2 割であった（「卒業後 10 年」3 割、「卒業後 5 年」4 割）。10 人のヒアリング対象者のうち専門職は 6 人いたが、大学・短大時代の専門分野と関係していたのは教育関係の 4 人（B さん、D さん、E さん、G さん）であった。

一方、「非専門職系」の学科を卒業しても、その後資格を取得し「医療・福祉」の専門職として就業するケースが 10 人中 3 人も見つかった。例えば A さんは介護職員初任者研修、F さんは介護支援専門員（ケアマネジャー）、H さんは看護師の資格を取得し、医療・福祉分野で就業している。

退職については 10 人全員が経験していた。「卒業後 20 年」のアンケート調査結果（96%が最初の就職先を退職）を考えれば妥当な数字である。経営者、管理職として就業している卒業生も 3 人みられ、マネジメント世代のための支援プログラムを希望する声も聞かれた。

【卒業生調査結果を活かした女性キャリア開発研究センターの取り組み】

4 回にわたるアンケート調査とヒアリング調査を通して、女性キャリア開発研究センターは 3 つのポイントを指摘し、その実現に向けて取り組みを進めてきた。

一つは「ロールモデルの提示と卒業生ネットワークの構築」で、センター内に交流スペースを設けて卒業生の活躍を紹介したり、地域連携推進センターと協働で卒業生の交流会を開催した。二つめは「卒業生のためのキャリア相談」で、2019 年度から開講しているリカレントプログラムにキャリアカウンセリングとインターンシップを取り入れているが、まだ十分ではないため、今後は仕事の紹介も含め就職支援センターの取り組みに期待する。三つめの「学び直しの機会の提供」については、2019 年度よりリカレントプログラム（ビジネス系、福祉系）を開講し、再就職支援とリスキリングの場を提供した。

II. キャリア支援

(1) インターンシップ

全学科共通科目として正課内で行う「キャリア実習」「インターンシップ」と併せ、正課外のプログラムも提供している。大学コンソーシアム京都主催「インターンシップ・プログラム」をはじめ、企業・自治体・NPO 法人等での就業体験を通して、社会人としての心構えや仕事のやりがい、働くことの意味を知り、自身の適性・能力を見出すきっかけにしている。

前期には、インターンシップ実習先紹介として団体、企業等によるインターンシップガイダンス（説明会）、事前学習、後期には、事後学習、成果報告会等を開催。実習先の選択から応募書類のアドバイスなどの事前準備、実習終了後の振り返り作業の事後フォローまで、学生に合わせてサポートしている。

4/14	キャリア実習・インターンシップ合同ガイダンス	公益財団法人大学コンソーシアム京都
6/9	就業体験ガイダンス	NPO 法人 JAE 事務局、京都府福祉人材サポートセンター、株式会社カース・キャリアセンター、福井県経営者協会
6/16		

▶大学コンソーシアム京都「インターンシップ・プログラム」実習先

特定非営利活動法人気候ネットワーク、株式会社石田老舗、株式会社花工房、株式会社長栄、株式会社葵総合保険、株式会社ハートフレンド（総合食品フレスコ）、亀屋良長株式会社、柊屋株式会社、京都市、滋賀県庁

▶インターンシップ先（自発的な参加）

法務省、SMBC 日興証券株式会社京都支店、社会福祉法人浩照会介護老人保健施設あじさいガーデン伏見、花ノ木医療福祉センター、医療法人清仁会シミズひまわりの里、医療法人社団蘇生会老人保健施設 など

■事前学習、事後学習、成果報告会

大学オリジナルのキャリア実習 / インターンシップノートを使用し、事前学習では企業研究や目標設定、事後学習では実習を振り返り、気づきや得た力を再確認している。事前学習では、社会人としての基本的な挨拶や電話対応、メールの送り方などのビジネスマナーを学習している。また、成果報告会では実習での成果や学びを共有し、今後の就職活動や将来の進路選択に役立てている。



■大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラムにおける学生の受入れ

今年度は、大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラムの実習先として1名の学生を本学に受け入れた。大学事務職員の業務を体験するため、各部署の業務だけでなく、オープンキャンパスや地域連携推進センター主催のこども食堂企画、職員対象の防災訓練にも参加し、最終日には実習を振り返る報告会を実施した。

▶受入学生：京都ノートルダム女子大学2年生

▶実習期間：8月17日（木）～8月30日（水）10日間



(2) ビジネスマナー講座・ワークショップ

各学科のニーズに合わせ、基礎ゼミなどの正課授業において、インターンシップや臨地実習に参加する学生の事前学習として専門家によるビジネスマナー講座を実施した。

4/25	健康栄養学科 (3 年生)
6/13	ライフデザイン学科 (1 年生)
7/7	「キャリア実習 b」「インターンシップ b」(履修生)
10/19	医療福祉学科社会福祉専攻 (2 年生)
10/24	医療福祉学科言語聴覚専攻 (1 年生)

■性的同意ワークショップ&第三者介入ワークショップ（京都市主催）

12月1日（金）性的同意ワークショップ

- ▶ 会 場：本学
- ▶ 企画・運営：（公財）京都市男女共同参画推進協会
- ▶ 参 加 者：キャリア形成学科7名、看護学科4名、心理学科1名、社会福祉専攻2名、助産学専攻1名



12月9日（土）第三者介入ワークショップ

- ▶ 会 場：京都市男女共同参画センターウィングス京都
- ▶ 企画・運営：（公財）京都市男女共同参画推進協会
- ▶ 参 加 者：心理学科1名、社会福祉専攻2名、助産学専攻1名、龍谷大学生



■職業適性検査（キャリア・インサイト）

「キャリア・インサイト」は独立行政法人労働政策研究・研修機構が開発・改訂しているキャリアガイダンスシステムで、パソコンから簡単に職業情報の検索、適性と職業との適合、キャリアプランニング等が可能である。学生が主体的に自己分析に取り組み、必要に応じてセンター職員が対応している。18歳から34歳程度の職業経験の少ない若年者だけでなく、35歳以上で職業経験のある求職者も対象とされているため、学生だけでなく、リカレントプログラム受講者も活用している。

■図書コーナー

国立女性教育会館（NVEC）女性教育情報センター所蔵図書の貸出サービスを導入している。図書パッケージは3か月ごとに入れ替えられ、2023年10～12月「政治、性教育、貧困、病気・闘病記、ファッション」のテーマにおいては、「百合子とたかこ 女性政治リーダーの運命」（岩本美砂子著）、「あわてず、あせらず、あきらめず」（宮川大助・花子著）など、学生だけでなく社会人にも関心を引く多様な図書を提供した。



(3) ボランティア

誰かの役に立つことの喜びを通して、心豊かな人間性を養い、受入先での業務と併せて、「働くことの意義・価値」を学ぶ貴重な機会としている。当センターでは、学生一人ひとりに合ったボランティア活動への参加を勧めている。

▶参加ボランティア紹介

京都市立松尾中学校、京都市立凌風小中学校、豊郷町小学校学力補充事業 夏季休業中学力補充教室、みつばち菜の花保育園、西院幼稚園、勤修児童館、藤の木セカンドハウス、醍醐西校区社会福祉協議会、京都ボランティア協会、JOF事務局、京都市左京西部いきいき市民活動センター、京都市福祉ボランティアセンター、京都ライトハウス、NPO 法人ジャパンアウトドアファクトリー、京都マラソン 2023（京都市文化市民局市民スポーツ振興室） など

京都マラソン 運営ボランティア（コース沿道整理係）

- ▶ 日 時：2024年2月18日（日）
- ▶ 会 場：京都市内（西京極・梅津ブロック）
- ▶ 参加者：健康栄養学科管理栄養士専攻2年生4名、看護学科1年生1名、キャリア形成学科1年生2名



(4) 学 Boo

教職員の提案により募集する通年・前期・後期のラーニングコミュニティ、通称『学 Boo (まなぶー)』は、自由参加型の学習グループである。学生が自分の興味や関心のあるテーマを選択し、同じ興味を持った他学年・他学科の学生や教職員がアドバイザーとなり、少人数グループで定期的に集まり学習に取り組んでいる。今年度は、前期(通年)に18グループ、後期から5グループが加わり、計23グループが活動した。毎月の活動は、<https://www.koka.ac.jp/manabooo/> で報告している。

▶ 2023年度 学 Boo スケジュール

3/1～4/9	募集期間(通年・前期活動分)
4/19	学 Boo 選定会議
4/26、27	説明会(両日昼休み@女性キャリア開発研究センター)
8/1～9/10	募集期間(後期活動分)
9/20	学 Boo 選定会議
1/16、17、18	成果発表会 23グループ (12:05～12:45 聞光館 キャンパスモール2階)

2023年度 学 Boo 一覧

葛野まちづくりプロジェクト

【PBL・通年】

金治 宏 (キャリア形成学科)



くりえいてい部 ～Creative～

【PBL・通年】

小山 理子 (ライフデザイン学科)



国際交流サークル ～Future Bridge～

【PBL・通年】

キット 彩乃 (看護学科)
須藤 和恵 (国際交流センター)



こころのネイリスト

【体験実習・通年】

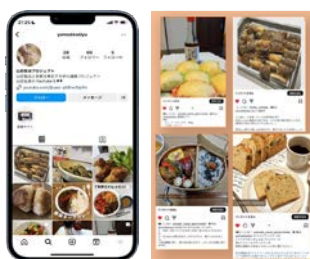
浜内 彩乃 (医療福祉学科)
古川 祐子 (心理学研究科)



ごま・ごま油の調理メニューのSNS発信

【PBL・通年】

酒井 浩二 (キャリア形成学科)



コミュニケーション支援プロジェクト

【体験実習・通年】

松田 芳恵 (医療福祉学科)
水谷 八千代 (医療福祉学科)
瀧澤 透 (医療福祉学科・客員教授)



酒づくりと人のつながり ～京都伏見の伝統文化を通じて～

【体験実習・通年】

高野 拓樹 (キャリア形成学科)
呉 鴻 (キャリア形成学科)



サステナブル KOKA クリエイト lab.

【PBL・通年】

宮原 佑貴子 (キャリア形成学科)



スポーツ栄養でジュニアアスリートを育む

【体験実習・通年】

小島 菜実絵 (健康栄養学科)



大学院インタ View !

【体験実習・通年】

岩中 伸壮 (健康栄養学科)



日本の伝統美・和のテイスト研究会

【体験実習・通年】

久世 奈欧 (ライフデザイン学科)
藤原 加織 (学園事務局)
真東 美也子 (本学卒業生・旧職員)



日本の文化を楽しむ

【体験実習・通年】

朝比奈 英夫 (キャリア形成学科)



本×図書館サークル「ビブリオフィリア」

【体験実習・通年】

大原 佳世 (図書館)
太田 路子 (真宗文化研究所)
下川 理子 (図書館)



レインボープロジェクト ～人を支える社会づくりを考える～

【PBL・通年】

塩崎 正司 (学習ステーション)
小澤 千晶 (真宗文化研究所、キャリア形成学科)



I'screem (映像研究会・アイ・スクリーム)

【体験実習・通年】

呉 鴻 (キャリア形成学科)
新村 拓生 (学長戦略推進部)



krn yoga

【体験実習・通年】

谷本 拓郎 (心理学科)
小谷 真以 (学生サポートセンター、心理学科コモンズ)
小谷 果琳 (心理学科 4年生)



PhoTrip koka

【体験実習・通年】

新村 拓生 (学長戦略推進部)
呉 鴻 (キャリア形成学科)



SCIENTISTS !

【体験実習・通年】

岩中 伸壮 (健康栄養学科)



KOKA ☆オレンジサポーターズ

【PBL・後期】

関 道子 (医療福祉学科)



そうだ、野菜とろう

【PBL・後期】

橋口 美智留 (健康栄養学科)



中医学で出来るセルフケアの体験や実習教室

【体験実習・後期】

呉 小玉 (看護学科)



絵本から英語を学 Booo

【座学・後期】

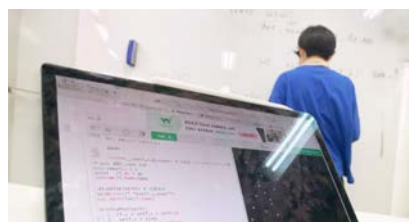
田縁 真弓 (こども教育学科)
大原 佳世 (図書館)
楠 香織 (図書館)



プログラミング×データサイエンスにチャレンジ!

【座学・後期】

臼井 義比古 (キャリア形成学科)
土居 淳子 (キャリア形成学科)



Ⅲ. リカレントプログラム

(1) 本学のリカレント教育

本学では、女性キャリア開発研究センターと地域連携推進センターが協働し、卒業生や地域の社会人があらゆるライフコースで社会実現をサポートするべく2019年9月からリカレントプログラムを開始した。プログラムの一つであるビジネス系プログラムは、毎年「大学連携京都府リカレント」に選定されている。

今年度は「ウェルビーイングに生きる学び直しプログラム」とし、2つのコース：Ⅰ.「新たな視点を仕事に活かす」、Ⅱ.「次世代ケアワーカー育成プログラム（職業実践力育成プログラム）」を開講した。京都府リカレント教育推進事業費補助金にも採択され、Ⅰは3名、Ⅱは1名が修了し、計4名に履修証明書を交付した。

京都光華女子大学リカレント教育
2023年度京都府連携リカレント

わたらしい生き方、光華で見つけたかも。

2023年度
受講生募集
締切:8月18日(金)

Well-being For Future
Well-Being
豊かな明日が夢ひらく

本学のリカレントプログラムでは、休職中・育休中、仕事をセーブしている、キャリアアップを目指している、自分のライフキャリアに悩んでいる、新しいことにチャレンジしたい等、多様な方々が学び直しています。あなたももう一度、学校で学び直してみませんか。

ウェルビーイングとは、身体的・精神的・社会的に良好な状態にあること。本学では、Well-beingを実現する健康・未来創造キャンパスの実現を目指しています。

「学びたい」にはそれぞれの理由があっていい。選べる2つのコース

新たな視点を仕事に活かす
職場や社会で必要とされる知識や事務スキルだけでなく、ワークライフバランスに役立つ多彩な教養科目を選択でき、大学生とともに学びます。また、2023年度は「京都の放(ふ)る」を道(みち)ねる「災害時のレジリエンスを育む」の2つのリカレントプログラム特別科目をご用意しています。
開講期間 2023年9月22日～2024年1月22日

次世代ケアワーカー育成プログラム（職業実践力育成プログラム）
今後ますます求められる介護職に特化し、多職種にまたがる幅広い知識と現場に必要な対人スキルを習得します。本コースは、文部科学省の「職業実践力育成プログラム」に認定されています。ハローワーク等と連携し、求職活動をサポートします。
開講期間 2023年10月1日～2024年1月31日

3つの安心サポート 保育 就業前セミナー（インターンシップ） キャリアカウンセリング

お申し込みお問い合わせ
京都光華女子大学 女性キャリア開発研究センター
〒603-0062 京都府京都市南区西九条五丁目18-1（近畿大学総合体育館横断歩道7分、光華女子学園バス停徒歩1分）
Email: careered@mail.koka.ac.jp Tel: 075-325-5473（FAX）075-325-5474

2023 年度科目一覧

Ⅰ. 新たな視点を仕事に活かす

▶ 基礎科目（必修2科目以上、各1回90分）

キャリアデザイン
ICTリテラシー
男女共同参画とジェンダー
マネジメントとリーダーシップ

▶ 特別科目

京都の故きを温ねる
災害時のレジリエンスを育む

▶ 自由科目（各科目90分授業×15回）

〔外国語〕	実践中国語Ⅱ、観光英語Ⅱ、TOEICⅡ 実践ビジネス英会話、実践英語ⅡA・ⅡB
〔ICT・データサイエンス〕	コンピュータグラフィックス演習Ⅰ コンピュータ活用A（テキストマイニング） コンピュータ活用B（動画編集）、ワープロスキルⅡ 情報社会の未来を知る、プログラミング入門 表計算スキルⅡ、データ解析入門
〔ビジネス〕	簿記会計学、経営法務、マーケティング 簿記・会計実務基礎 簿記・会計実務応用 消費者心理学、プレゼンテーション ブランドデザイン、女性のアントレプレナーシップ
〔QOL〕	メンタルヘルス論、ターミナルケア 保健医療と福祉、子どもの食と栄養 子どもと人間関係、子ども家庭支援の心理学 くらしのなかの統計学

Ⅱ. 次世代ケアワーカー育成プログラム

▶ 必修（計18時間）

社会福祉を学ぶ基礎（2）
社会福祉の基本概念（2）
自分のためのメンタルヘルス（2）
AIが変える在宅医療（2）
介護におけるコミュニケーション技術（4）
行政サービス（2）
評価される報告書の書き方（4）

▶ 選択必修（6時間以上）

多職種連携A（地域包括ケアシステム）（2）
多職種連携B（看護師からみた在宅ケア）（2）
多職種連携C（管理栄養士からみた在宅ケア）（2）
多職種連携D（薬剤師など）（2）
多職種連携E（理学・作業療法士など）（2）
多職種連携F（言語聴覚士、歯科衛生士など）（2）

▶ 自由選択（30～36時間）

家事支援スキル（2）
カウンセリングマインド（2）
健康づくりと運動（2）
家庭内の虐待への対応（2）
専門職としてのキャリアアップ（4）
ガイドヘルパー（12）
職場研究（6）
施設連携実習（短期）（12）
施設連携実習（中期）（30）

受講生に合わせたカリキュラムの実施

I. 新たな視点を仕事に活かす

	講座・科目	開講日
基礎科目	キャリアデザイン	10月25日
	ICTリテラシー	11月7日
	マネジメントとリーダーシップ	11月1日
	男女共同参画社会とジェンダー	11月8日
特別科目	京都の故きを温める（今河織物株式会社）	12月6日
	色彩ブランディング基礎講座	1月23日
	今日からできる！センス不要の文章術	2月14日
	映像制作講座	2月19日
	経済・金融講座	2月26・27日
	デザイン講座	2月27日
その他	職場見学（光華女子学園）	11月21日
	職場見学（堀忠染織株式会社）	12月5日

II. 次世代ケアワーカー育成プログラム

	講座	開講日
必修	社会福祉を学ぶ基礎・社会福祉の基本概念	11月24日
	自分のためのメンタルヘルス	11月30日
	AIが変える在宅医療	オンデマンド
	介護におけるコミュニケーション技術	オンデマンド
	行政サービス	オンデマンド
	評価される報告書の書き方	12月15日
選択必修	多職種連携 A / 地域包括ケアシステム	12月12日
	多職種連携 B / 看護師	11月21日
	多職種連携 C / 管理栄養士	12月6日
	多職種連携 D / 薬剤師	オンデマンド
	多職種連携 E / 理学療法士・作業療法士	オンデマンド
	多職種連携 F / 言語聴覚士	オンデマンド
自由選択	家事支援スキル	11月30日
	カウンセリングマインド	12月12日
	健康づくりと運動	オンデマンド
	家庭内の虐待への対応	11月22日
	専門職としてのキャリアアップ	11月22日
	職場研究（介護施設）	11月21日
	職場研究（本学クリニック）	2月2日
	施設連携実習（社会福祉法人レモンガラス）	1月24日
	施設連携実習（社会福祉法人南山城学園）	2月8日
その他	摂食嚥下障害学演習	12月23日



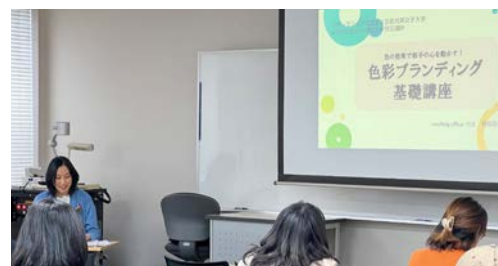
9/22 開講式



京都の故きを温める（今河織物株式会社）



職場見学（堀忠染織株式会社）



色彩ブランディング基礎講座

2023 年度修了生の声

Aさん「新たな視点を仕事に活かす」受講

自分で事業がしたいものの、知識が全く無かったため参加しました。授業ではビジネス系を中心に選択した結果、私が学びなかったこと以上に沢山の事を学ぶことが出来ました。また当初の予定にはなかった簿記3級の資格取得にも挑戦することとなり、私の想定以上に大変充実した学生生活を送ることが出来ました。参加して良かったです。

Bさん「次世代ケアワーカー育成プログラム」受講

介護支援専門員（ケアマネジャー）として働いています。専門職との連携が必要と言われてもサービス提供の依頼が多く、どの部分をどう連携していくべきか迷うこともあり、多職種連携の講座が多い光華のプログラムを受講しました。それぞれの専門職の重なる領域を理解できたこと、学び直すことで介護職の経験が根拠のある知識として再認識できたことは大きな自信になりました。

(1) 女子大学連携ネットワーク

「女子大学連携ネットワーク」の趣旨

東京に集う

女子大学 連携のための キックオフミーティング

京都の女子大学から全国の女子大学へ

これからの女子大学への役割と課題などについて現状を話し合い、
連携体制を構築していきませんか。

その出席先として東京丸の内にてキックオフミーティングを開催いたします。
女子大学に所属する方なら他校他府の学生さんでもご参加いただけます。

テーマ

女子大学の現代の意義、キャリア教育、企業との連携（インターンシップ）、地域の女性リーダー育成、女性の社会参画、
女性の社会的役割、グローバル化と女性、経済産業政策（卒業生支援、分野別支援システム）、
リカレント教育（キャリア中断女性の就業支援）、防災と女子大学 など

from KYOTO0 to JAPAN

2018年
3月22日(木) 15:00~18:00
(14:30開場)

【当日の内容】 課題の共有、連携の方法、具体的な取組 など

【会場】 京都アカデミアフォーラム in 丸の内
(新丸の内ビルディング10階 C-D室)
東京都千代田区丸の内1-1-1
<http://www.kyoto-ac.jp>

京都3女子大学の問合せ先(五十音順)

- ・金沢学院女子大学 女性キャリア開発推進部センター careered@mkj.kai.ac.jp (LINE@ 金沢学院)
- ・京都女子大学 地域連携推進センター csu@ushin.kyoto-u.ac.jp (LINE@ 竹宮愛子)
- ・同志社女子大学 女性キャリア開発センター kenkyu@dwg.doshisha.ac.jp (LINE@ 菊川理恵)



東京に集う

女子大学 連携ネットワーク 第2回ミーティング

京都の女子大学から全国の女子大学へ

これからの女子大学を取り巻く課題などについて情報交換を行い、
連携の輪を広げていきます。

日本の女子大学が協力する役割を共に考え、発展し、
学部の発展を促すとともに、社会貢献の足かりとします。

〈テーマ〉女子大学への過去・現在・そして未来へ

女子大学の発展を促すため、関係の輪を拡大し、未来について考える。

AMESSAGEからKYOTO

2018年
9月11日(火) 14:00~17:00
(13:00開場)

【当日の内容】課題の共有、具体的な取組 など

【会場】京都アカデミアフォーラム in 丸の内
(新丸の内ビルディング10階 C・D室)
東京新千代田区丸の内1-5-1
http://www.kyoto-af.jp

女子大学に勤務する方から職位を問わず参加できますので
下記いずれの幹事様までお申込みください。

京都3女子大学(正+準)編

- 京都府立女子大学 企画・広報・総務課 佐藤 一子 tsunehiko@mail.kyoc.ac.jp (正+準 京都府立)
- 京都女子大学 地域連携推進センター fusushim@kyoto-wu.ac.jp (正+準 竹野女子)
- 同志社女子大学 女性学アカデミアセンター kenkyu@owc.doshisha.ac.jp (正+準 同志社)

京都の女子大学から全国の女子大学へ

女子大学 連携 ネットワーク

第3回

◆ 講師 眞鍋 久美子 山崎 幸子
 ① 関西女子大学 経済学部の先生に聞く
 ② 信託女子大学 経済学部の先生に聞く
 ③ 文芸女子大学 経済学部の先生に聞く
 ④ 京都女子大学 経済学部の先生に聞く

◆ 今後の開催について

2019年 9月2日(日)

【時間】 14:00～17:00(13:30開場)

参加費 無料

会場 MAP

京都女子大学 150周年

京都府立女子大学 女性キャリア開発研究センター
 京都女子大学 地域連携研究センター
 同志社女子大学 女性キャリアバリエーションセンター

carreer@mail.kyu-u.ac.jp (センター長 加藤千恵)
 r-sushin@kyoto-wu.ac.jp (センター長 竹岡孝子)
 kenkyu-i@dwz.doshisha.ac.jp (センター長 眞田正樹)

女子大学連携ネットワークの趣旨

このネットワークの目的は、京都の女子大学から全国の女子大学へ、女子大学間の連携を促進し、女子大学間の連携を促進し、女子大学間の連携を促進することです。

東京
にて開催

[illegible]

2023年度女性デー

女子大学 連携 ネットワーク



第5回ミーティング

選ばれるための女子大学の戦略2
女子大学で成長する仕組みづくり

女子大学で連携ネットワークとは、
女子大学が連携の場に出会い、情報共有する場を指しています。

全国は「女子大学で成長する仕組みづくり」をテーマに、
女子大学で連携し、協力し合う女子大学(学)を、
フェリス女子大学(学)・聖光学院(学)・清泉女子大学(学)の
3校を軸とさせていただきます。

各の女子大学との協賛関係もお願いいたします。
中絶した女子大学へお問い合わせください。

参加費
無料

2023年

3月6日

(月)

Zoom
にて開催

【時間】 18:00~19:30

女子大学に勤務する方からご参加を希望なさいます

▶ 女子大学連携ネットワークの趣旨

これまで女子大学の関係性について情報共有し、連携の場を構築しています。目的は女子大学が
働く女子大学と協力し、協力し合う女子大学(学)を、
フェリス女子大学(学)・聖光学院(学)・清泉女子大学(学)の
3校を軸とさせていただきます。

**申込み
締切**

**事例紹介を希望する方
2月23日◎**

**参加の人数希望は5方
3月2日◎**



参加費

参加費は女子大学(学)に問い合わせください。参加費は、参加する女子大学(学)に所属する方、関係者、関係者以外に支払われます。参加費は、参加する女子大学(学)に所属する方、関係者、関係者以外に支払われます。

■ **第5回ミーティング (2023年3月)**

▶ **テーマ** 選ばれるための女子大学の戦略 2
一女子大学で成長する仕組みづくりー

▶ **話題提供**

- (1) 聖心女子大学
- (2) 椋山女学園大学
- (3) 藤女子大学
- (4) フェリス女学院大学
- (5) 甲南女子大学

▶ **オンライン開催** 33大学 / 90名参加



●女子大学連携ネットワーク●

国際女性デーシンポジウム

「女子大学の現在、そして未来へ」



International Women's Day



日時：2019年 **3月7日** (木)
13:00～17:00 (受付 12:30～)

会場：**京都光華女子大学**
関光館2階 253教室
(憩意館 関光館1階 16:30～17:00)

■タイムスケジュール

13:00～13:05 開会の時

第I部 女子大学の未来、三学長と共に

13:05～13:35
講演「女性の教育と持続可能な開発目標 (SDGs)」
5分野関係人
フロンティア・ナショナル・ジョイント・フォーラム
池上 清子

13:35～14:00
三学長講演「三学長、女子大学の未来を語る」
京都光華女子大学 学長 京都女子大学 学長 京都市女子大学 学長
加賀 裕都 一柳 正道 林 忠行
14:00～14:40
パネルディスカッション
パネリスト 三学長
モデレーター 池上 清子

第II部 女子大学の現状と課題

15:00～15:40
女子大学におけるカレント教育
日本女子大学 教授 坂本 清志
女性学センター長 坂元 文子
地域連携センター長 安代 菜津
15:40～16:00
女子大学におけるキャリア教育
同志社女子大学 女性キャリア開発センター長
京都光華女子大学 女性キャリア開発センター長

16:00～16:20 全体討論
16:30～17:00 懇談会

特別講演者
池上 清子
日本経済新聞社
フロンティア・ナショナル・ジョイント・フォーラム
池上 清子

加賀 裕都
京都光華女子大学
加賀 裕都
女性学センター長
池上 清子
一柳 正道
京都市女子大学
一柳 正道
女性学センター長

林 忠行
京都女子大学
林 忠行
女性学センター長
(おひさ 氏と共演)



京都光華女子大学 学長
加賀 裕都
女性学センター長
池上 清子
一柳 正道
(おひさ 氏と共演)



同志社女子大学 学長
加賀 裕都
女性学センター長
池上 清子
一柳 正道
(おひさ 氏と共演)



京都女子大学 学長
林 忠行
女性学センター長
(おひさ 氏と共演)

●懇話会代表者
京都光華女子大学 女性キャリア開発研究センター
〒615-0882 京都市右京区西京原慈恩野町 38
TEL: 075-325-5515

女子大学連携
ネットワークの標榜

これらの女子大学の学長が参加し、講演や懇話会を行います。懇話会では、懇話者、コーディネーター、司会者、進行役、録音、録画、録音機材を準備する予定です。各参加機関の都合が優先となります。

【特別協賛】
京都光華女子大学 女性キャリア開発研究センター
同志社女子大学 女性キャリア開発センター
京都光華女子大学 女性キャリア開発研究センター

参加無料

女子大学連携ネットワーク2021

国際女性デーシンボジウム

ZOOMで開催!



テーマ

大学・ガバナンスにおける

女性の参画

2021年 3月8日(月) 14:30 ~ 16:00

女子大学の参画について議論しては来ましたが、議論してもどうも「参画」が実現しないという現状です。参画を「参画意識」から「参画行動」へと変換して、大学の参画の中心となる活動に繋げていく必要があります。今回のシンボジウムでは、参画意識を参画行動へと変換するポイントについて、今後の方向性について議論します。

女子大学における参画意識を参画行動へと変換するポイントについて、今後の方向性について議論します。

女子大学の参画意識を参画行動へと変換するポイントについて、今後の方向性について議論します。

要申込

定員 100名

SCHEDULE

開会挨拶 ▶ **講演**

(各20分)

講演者による意見発表 ▶ 女性参画意識醸成に基づく行動計画に基づく参画意識 ▶

チャットによる質疑

講演 1

高田 ちか子

東京大学大学院政策・メディア研究科准教授

女性の参画意識

コーディネーター

女子大学における参画意識を参画行動へと変換するポイントについて、今後の方向性について議論します。

講演 2

「女性価値観」

グッド・ガバナンス

高田 ちか子

東京大学大学院政策・メディア研究科准教授

講演 3

高田 ちか子

女子大学連携ネットワーク

女性参画意識醸成

高田 ちか子

東京大学大学院政策・メディア研究科准教授

講演 4

高田 ちか子

女子大学連携ネットワーク

女性参画意識醸成

高田 ちか子

東京大学大学院政策・メディア研究科准教授

講演 5

高田 ちか子

女子大学連携ネットワーク

女性参画意識醸成

高田 ちか子

東京大学大学院政策・メディア研究科准教授

講演 6

高田 ちか子

女子大学連携ネットワーク

女性参画意識醸成

高田 ちか子

東京大学大学院政策・メディア研究科准教授

女子大学連携ネットワーク

申込み方法

Googleフォーム <https://forms.gle/TPyZm39L9E9f79>

申し込み受付期間

Googleフォーム <https://forms.gle/TPyZm39L9E9f79>

お問い合わせ先

女子大学連携ネットワーク事務局

〒100-8302 東京都千代田区千代田 1-1-1 女子大学 100号館 100号室

TEL: 03-3280-1111 FAX: 03-3280-1112

QRコード



女子大学連携ネットワークの紹介

女子大学連携ネットワークは、女子大学間の連携を促進し、女性参画意識醸成を目的としています。

女子大学連携ネットワークは、女子大学間の連携を促進し、女性参画意識醸成を目的としています。

■国際女性デー シンポジウム
(2019年3月)

第1部
講演
「女性の教育と持続可能な開発目標」
「三学長、女子大学の未来を語る」
パネルディスカッション
第2部
女子大学の現状と課題
「女子大学におけるリカレント教育」
「女子大学におけるキャリア教育」
▶ 対面開催
23大学・5団体／100名参加

■国際女性デー シンポジウム
(2021年3月)

講演
「英国における高等教育機関での女性の参画状況」
「女性活躍とグッドガバナンス」
「女子大学における女性上位職・女性管理職の現状」
▶ オンライン開催
27 大学・2 団体／90 名参加

女子大学 連携 ネットワーク

第6回ミーティング

進ばれるための女子大学の戦略3 卒業生との絆づくり － 異業界の力を大学の力に－

女子大学連携ネットワークでは、
女子大学の教職員と協賛企業との連携を不可欠の活動としています。

今回は、大学の卒業・修業に卒業生との関わりが不可欠の場から、
同窓会組織をはじめに卒業生との関わりについて考えます。

またコロナ禍によりオンライン開催となりましたが、4月8日に対面で開催いたします。
直接対話をするところによって大学の連携を進め、新たな価値につなげていきたいと思えます。

協賛機関

- ・昭和女子大学(学長室長・校務企画課 金子静子)
- ・同志社女子大学(学芸学部・国際センター長 光本幸子)
- ・宣教師学院大学(学芸部・教務 天風麻子)
- ・武庫川女子大学(学生生活協会の経営研究所 高橋孝子)

▶ 各大学の事務局(学芸部長、課長等)を歓迎いたします。
申し込みフォーム(以下)よりご連絡ください。

会場MAP



2023年 8月31日(土)

時間 15:00～17:00 (14:30開場)

東京都千代田区丸の内1-5-1
(新大塚ビルディング10階・C10会議室)

京都市方角マリアフォーラム in 丸の内
(〒600-8501 京都府京都市中京区丸の内4-1-1)

▶ **女子大学連携ネットワークの趣旨**

これからの女子大学が取る様々な戦略として、情報交換を行い、連携協力を模索していきます。日本の女子大学が果たす役割共に考え、調和、相補、学習効果等を図るとともに、社会貢献の面にもつなげていきます。

申込先 <https://forms.office.com/e/XZL2IT7TNq4>

女子大学に勤務する方なら
お申し込みが可能です。

申込締切

8月27日(土)



協賛校 京都府女子大学(女性学)学芸部長・国際センター長 加藤千恵、京都女子大学(国際部)部長・地域連携研究センター長 中山浩子、同志社女子大学(学芸学部)学芸部長・国際センター長 光本幸子、大塚女子大学(学芸部)部長・上原あずさ、昭和女子大学(学芸部)部長 田口美穂

事務局 京都府女子大学 女性学・学芸部国際センター長 career@kai.ac.jp

TEL 075-225-3315



2024国際女性デー

女子大学 連携 ネットワーク

第7回ミーティング

**進ばれたための女子大学の魅力4
卒業生との絆づくり
～学部・学科の教育と両立をめぐり～**

女子大学連携ネットワークとは、
女子大学の教員が自由に関わり、協働する場を提供しています。

第7回ミーティングは、大学の「絆」づくりは卒業生との連携が不可欠との観点から、
卒業生と学部の架け橋として考えます。
学部・学科の学びのソースをもっと活用したい、と
具体的な事例共有と共に意見交換を行います。

参加機関

- 東京女子大学(人間生活学専攻教授 和田麻子)
- 宮城学院女子大学(一般教育学部教授 元岡理子)
- 聖光女子大学(経済生活学部教授 元岡理子)
- 聖光女子大学(生活科学部教授 高瀬佳子)

▶各大学の事務局より(報告書、議題等)をお送りいたします。
申し込みフォーム(QRコード)よりご連絡ください。

参加費無料

Zoom
にて開催

2024年3月4日(月)

【時間】18:00～19:30 **女子大学に勤務する方から聴きをお聞き下さい**

▶ **女子大学連携ネットワークの趣旨**

これらの女子大学の取り組みや課題などについて情報交換を行い、連携体制を構築していきます。日本の女子大学が果たす役割を共に考え、探知し、学術的成果を提示するとともに、社会貢献の足掛かりとします。

申込先 <https://forms.office.com/r/5f6068W3vz>

申込締切 2月26日①

事務局紹介希望とする方
2月26日②

①参加のみ出席する方
2月29日③
3/13(水)開催予定です

特設ページ 本学女子大学理事 上田明子氏、京都府女子大学学長及び事務局長 藤井一孝 氏御中、三田女子大学学部長、「姉妹大学関係センター」会 山崎 ひとみ 氏御中、文京学院女子大学生活科学教授、下関市立男女共同参画推進委員 高橋由子 氏御中、岡山女子大学アカデミックインセンティブ 光木幸子 氏御中、和歌山女子大学女子学生部長 堀江美穂 氏御中、山口県立総合女子大学 文化研究センター 佐々木 友香 氏御中

事務局 神奈川女子大 遠隔交流センター 担当 佐藤 真由 047-971-1125 email shushoku@wayo.ac.jp

■第6回ミーティング（2023年8月）

▶ **日 時** 2023年8月31日(木) 15:00～17:00

▶ **場 所** 京都アカデミアフォーラム(東京丸の内)

▶ **テ ー マ** 選ばれるための女子大学の戦略3
卒業生との絆づくり～同窓生の力を大学の力に～

▶ **話題提供**

- (1) 昭和女子大学 光葉同窓会の事例
- (2) 宮城学院女子大学と同窓会・同窓生～宮城学院の事例～
- (3) 武庫川女子大学・短期大学部・附属中上部 同窓会 鳴松会の事例
- (4) 同志社女子大学同窓会～Vineの会の取組みの紹介～
- (5) 藤女子大学ブランドUPプロジェクト～藤の花からつなげる未来～
- (6) 日本女子大学における卒業生との絆づくり

▶ **対面開催** 20大学2機関／42名参加

■第7回ミーティング（2024年3月）

▶ **日 時** 2024年3月4日(月) 18:00～19:30

▶ **テマ** 選ばれるための女子大学の戦略4
一学部・学科の教育と同窓生をつなぐー

▶ **話題提供** (1) 藤女子大学
(2) 宮城学院女子大学
(3) 京都女子大学
(4) 実践女子大学

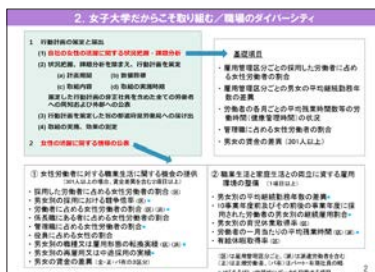
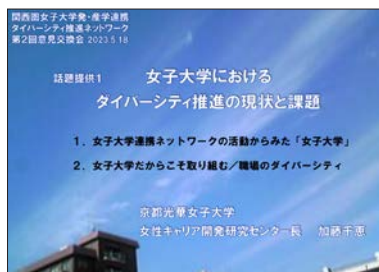
▶ **オンライン開催**

(2) 関西圏女子大学発・産学連携ダイバーシティ推進ネットワーク

本学が加盟する「関西圏女子大学発・産学連携ダイバーシティ推進ネットワーク」では、奈良女子大学が代表となり、定期的に意見交換会を開催している。本学を含め、18校の大学・高等専門学校と17の企業・団体が参加している。

「第2回意見交換会」では、本学女性キャリア開発研究センター長が、学校法人における「くるみん」「えるぼし」取得の意義について講演した。認定マークの取得方法について活発な意見交換が行われた。

- ▶日時 2023年5月18日(木) 13:00～14:00
▶演題 女子大学におけるダイバーシティ推進の現状と課題
(オンライン開催)



(3) 女性のためのリカレント教育推進協議会

リカレント教育を実践する本学、日本女子大学、関西学院大学、明治大学、福岡女子大学、京都女子大学、山梨大学、相山女学園大学の8大学は、女性のためのリカレント教育の啓発活動、関係官庁への提言などを行うため、「女性のためのリカレント教育推進協議会」を運営している。

2023年度は、リカレントの学びがアントレプレナーの創出に寄与することを期待してシンポジウムを開催した。本学は、女性キャリア開発研究センター長が、今年度開講したリカレントプログラムについて報告した。

- ▶日時 2024年2月16日(金) 13:00～15:30
▶テーマ アントレプレナーとリーダーシップ
(オンライン開催)



京都光華女子大学「ウェルビーイングに生きるリカレントプログラム」報告

女性キャリア開発研究センター 2023 年度報告書

編集・発行 2024 年 3 月

発行者 京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部
女性キャリア開発研究センター



女性キャリア開発研究委員会

加藤 千恵（センター長 / 教授）

佐藤 嘉洋（センター所員 / キャリア形成学部キャリア形成学科 講師）

小島 菜実絵（健康科学部健康栄養学科 准教授）

呉 小玉（健康科学部看護学科 教授）

徳田 仁子（健康科学部心理学科 教授）

関 道子（健康科学部医療福祉学科 教授）

西野 夕子（こども教育学部こども教育学科 特任講師）

羽深 太郎（短期大学部ライフデザイン学科 講師）

森本 恵子（副学長）

土佐 嘉宏（副センター長）

橋詰 侑季（センターマネージャー）

小竹 梓（センター所員）

山元 綾子（センター所員）

染澤 倫子（センター所員）

手塚 彩子（センター所員）



京都光華女子大学大学院
京都光華女子大学
京都光華女子大学短期大学部
京都光華高等学校
京都光華中学校
京都光華小学校
光華幼稚園

京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部 女性キャリア開発研究センター

〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町 38

【TEL】075-325-5315・5473 【FAX】075-314-4515

【E-mail】careered@mail.koka.ac.jp